

令和 7 年度

事業報告書

社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会

令和 8 年 6 月

目 次

I 令和7年度事業報告

ミッション1 気づき・共感を育む	・・・ 1
ミッション2 ぐらしに寄り添う	・・・ 6
ミッション3 つながり、支え合う	・・・ 26

II 各区社会福祉協議会の事業報告

・・・ 32

区社協において共通で実施した事業

東灘区社会福祉協議会

灘区社会福祉協議会

中央区社会福祉協議会

兵庫区社会福祉協議会

北区社会福祉協議会

長田区社会福祉協議会

須磨区社会福祉協議会

垂水区社会福祉協議会

西区社会福祉協議会

この計画では、法令や社会福祉制度などで使用されている固有名詞を除き、「障がい」の表記には、ひらがなを用いています。

ミッション 1 気づき・共感を育む

取り組みの視点・ポイント

思いやりの心を育みます

支え合う気持ちを後押しします

福祉の“魅力”を発信します

日頃から災害への備えを進めます

(1) ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動

福祉の心を育み、実践活動に結びつけるための市民運動「ふれあいのまち KOBE・愛の輪運動」を推進した。

- ①愛の輪ポスター・障害者週間のポスター・心の輪を広げる体験作文の募集
ポスター展を開催し、表彰式を行った。

応募総数 405 点（小学生の部 336 点、中学生・高校生の部 69 点）

表彰式参加者 117 人

入賞作品集「温かい手」の発行 950 部

- ②愛の輪会員の活動の支援

愛の輪会員の企業・労働組合によるボランティア活動への取り組みを支援し、自立支援施設などへの電化製品の寄贈や、障害者施設への音楽療法用の楽器の寄贈など、愛の輪会員の特色を生かした社会貢献活動の推進に取り組んだ。

(2) 福祉教育・学習の推進

- ①福祉教育・学習プログラム開発の推進

各区に福祉教育担当者を設置し、新しい福祉教育プログラムの開発に向け連絡会を開催した。

- ②ボランティア・福祉体験学習用資機材の貸出し

市内の学校・事業所などが実施する福祉学習や介護、ボランティア研修を対象に車いす、アイマスクや携帯点字板などの貸出しを行った。

- ③福祉体験事業の実施

点字図書館と児童館による福祉体験事業（2 児童館、参加者数 46 人）

- ④本会運営施設などでの福祉学習の推進

ア．トライやるウィーク 在宅福祉センター2 人、点字図書館 3 人

イ．視覚障がい学生の職場体験実習 点字図書館 2 人

(3) 福祉体験学習（ワークキャンプ）

市内在学の中学生・高校生が神戸市内福祉施設で夏休みの 3 日間福祉体験学習を行った。

協力施設：349 施設 参加者数：959 人

(4) 障がいサポーター養成講座の実施

実施回数：16 回 講座受講：968 人

(5) ボランティア活動の推進

- ①各区にボランティアコーディネーターを配置しボランティアセンターを運営
ア. コーディネート実績（全区計）

	ニード件数	調整完了件数	紹介率
令和 7 年度	1,387 件	1,220 件	87.9%
令和 6 年度	1,429 件	1182 件	82.7%

イ. 市・区社協ボランティア登録数(令和 8 年 3 月末)

	団体登録数	団体所属人数	個人登録数
令和 7 年度	3,314 団体	114,504 人	3,328 人
令和 6 年度	3,204 団体	119,023 人	3,121 人

ウ. 各種ボランティア保険の受付

【ボランティア保険・共済受付状況（兵庫県社会福祉協議会管轄分）】

保険種別	市民活動災害共済	天災危険補償	行事用保険	合計
件数	3,950 件	111 件	1,844 件	5,905 件
加入者数	27,745 人	1,369 人	142,734 人	171,848 人

【ボランティア保険受付状況（全国社会福祉協議会管轄分）】

保険種別	ボランティア活動保険	ボランティア行事用保険	福祉サービス総合保障	合計
件数	17 件	86 件	15 件	118 件
加入者数	134 人	135 人	136 人	405 人

- ②助成金、貸室などによるボランティア活動支援

ア. ボランティア基金を活用したボランティアグループ活動助成

申請団体数：137 件 助成団体数：137 件 助成額：1,612,000 円

イ. ひょうごボランティアプラザが実施する県民ボランティア活動助成の申請受付

エントリー受付件数：655 件 助成決定件数：578 件

ウ. 活動や会議に用いるためのボランティアルームの管理運営

- ③ボランティアに携わる職員を対象としてボランティアコーディネーション力検定の資格取得支援（受験料相応額の支給）

- ④システム開発による情報環境整備

ボランティアに関する情報及び地域資源情報の一元化のためのシステム開発。

- ⑤神戸市内や近隣の大学、企業などのボランティアコーディネーターが集まる連絡会（k-onect+）の開催

(6) 災害支援活動の充実

- ①関係機関との情報交換・事業連携による迅速な支援体制の整備

被災支援ボランティア団体との協定締結を進めるとともに、近畿ブロックの研修参加を通じて災害時の支援体制を強化した。

- ②ICT を活用したボランティア受け入れ体制の整備と情報発信の充実

災害時における迅速な情報連携やマッチングへの ICT 活用を見据え、データを一元管理できるクラウドサービスを積極的に導入・運用を行った。

③ 本会職員を対象とした災害支援研修の実施

階層別研修全 14 回 → 資料集 P1

④ 災害福祉支援マニュアルの改訂

令和 8 年度改訂に向け、現行マニュアルの内容の精査や関係部署との調整、過去の災害対応事例の分析や、改訂に必要な課題の洗い出しを行い、マニュアル改訂の方針策定および具体的な改訂案作成に向けた基盤を整えた。

(7) 被災地への支援

① 災害救援募金

ア. 令和 6 年能登半島地震災害救援募金

令和 6 年 1 月 1 日に発生した、能登半島を震源とする地震により被災した方々を支援するための災害救援募金を実施した。

実施期間 : 令和 6 年 1 月 5 日(金)～令和 7 年 11 月 28 日(金)

寄付件数 : 1,075 件

寄付額 : 75,287,285 円

使 途 : 日本赤十字社が実施する「令和 6 年能登半島地震災害義援金」に全額寄付。

イ. ミャンマー地震災害救援募金

令和 7 年 3 月 28 日にミャンマー中部のマンダレー近郊を震源とする地震により被災した現地の方々を支援するための災害救援募金を実施した。

実施期間 : 令和 7 年 4 月 14 日(月)～令和 7 年 6 月 23 日(月)

寄附件数 : 64 件

寄附金額 : 979,170 円

使 途 : 日本赤十字社が実施する「2025 年ミャンマー地震救援金」に全額寄附。

(8) 兵庫 DWAT への参画

一般避難所などにおいて福祉専門職の知識と経験を生かして支援を行う「兵庫県災害派遣福祉チーム(兵庫 DWAT)」の活動に各種別連盟・協議会と連携して協力した。

チーム員推薦: 150 人(107 施設)

(9) 寄附を通じた福祉活動参加への促進

共同募金などの寄附活動に広く市民が参画できるよう、寄附活動の提唱を行い、多くの市民や企業・団体などが寄附活動に参画した。

(10) 地域福祉活動の担い手の育成

① こべっこランド

ア. 中高生・大学生ボランティアによるイベントの運営補助(延べ 213 人)

イ. 夏休みに小学 3～6 年生対象のこどもボランティア(延べ 35 人)

ウ. 発達障がいセミナーの修了者による発達支援事業活動(延べ 239 人)

② 児童館

絵本の読み聞かせ、人形劇、将棋教室、学習支援などボランティアとの協働(延べ 2,885 人)

③在宅福祉センター

デイサービスでの利用者との話し相手や行事のお手伝いなどのボランティア受け入れ（延べ 168 人）

④障害者スポーツ振興センター

市民による障害者スポーツリーダーを養成し、大会や教室へ派遣（登録者 392 人、延べ 464 人）

⑤点字図書館

蔵書の製作やプライベートサービス・公的情報の点訳・音訳を行うボランティアグループとの協働（計 170 人）

(11) 市民福祉大学の運営

市民の福祉への理解と参加を促し、ボランティアから専門職まで、幅広い人材の育成と資質の向上を図るため、市民福祉大学の運営を行った。

《研修・講座の実施実績》

区 分	開催本数	開催日数	参加者	延べ参加者
市民対象講座	11	81 日	695 人	2,156 人
地域活動者対象研修	11	11 日	1,795 人	1,795 人
社会福祉事業従事者研修	58	66 日	2,051 人	2,145 人
区ボランティアセンター実施講座	75	736 日	3,150 人	6,976 人
合 計	155	894 日	7,691 人	13,072 人

《動画配信実績》

区 分	開催本数	動画配信日数	動画再生回数
地域活動者対象研修	4	252 日	458 回
社会福祉事業従事者研修	3	45 日	266 回
合 計	7	297 日	724 回

《DVD 貸出実績》

区 分	貸し出し数
地域活動者対象研修	8 枚

➡資料集 P2

(12) 福祉ライブラリーの運営

福祉専門図書や DVD に加え、最新の福祉関連書籍を幅広く揃えるとともに、全国の福祉事業所情報を収集・整理し、専門性の高い情報拠点としての機能を強化した。

ア．多世代が日常的に集う場として自習席や車椅子対応席、キッズスペースを完備

イ．蔵書検索システム（OPAC）の充実を図り、利用者が必要な情報に迅速かつ容易にアクセスできる環境を整備。 ➡資料集 P5

(13) 養成研修事業

①神戸市認知症介護研修（従事者対象研修）

認知症高齢者に対する介護サービスの充実を目的に、高齢者介護の指導的立場にある職員及び介護業務従事職員を対象に、厚生労働省通知に基づく研修を実施した。

➡資料集 P6

②神戸市認知症研修(市民対象研修)

ア. 認知症サポーター養成講座(全194回、受講者6,525人)

認知症に関する正しい理解を深め、認知症の人とその家族を支援する協力者を育成するため、市民や企業などを対象に神戸市認知症研修の相談受付および講師調整を行った。(全185回、受講者6,082人)

また、市内9カ所において主催研修を実施した。(9回、受講者443人)

イ. 認知症 深掘り講座(受講者110人)

③キャラバン・メイト養成研修(全4回、受講者77人)

認知症サポーター養成講座の講師(キャラバン・メイト)の養成や、スキルアップ研修の実施、連絡会開催などにより、研修内容の充実に努めた。

➡資料集 P6

④神戸市若年性認知症支援者研修

あんしんすこやかセンター職員、デイサービスなど介護保険事業所職員などを対象に、市内支援者が若年性認知症の正しい理解をもち、若年性認知症の人が直面する様々な課題を考え、どう支援に結びつけていくのかを考える機会としてオンラインで開催した。(参加団体134団体)

(14) 情報発信の充実

①ホームページの機能拡充・強化

ホームページをスマートフォンなどの媒体でも閲覧するための改修を行い、行事、イベント、令和6年能登半島地震募金の実施状況など本会事業の最新情報を発信した。

②ソーシャルネットワークサービス(SNS)を活用した情報発信

Facebook や YouTube を活用した本会事業や地域活動情報の発信を行った。また、YouTube においては内外に向けたオンライン研修や説明などにも活用した。

さらに、こべっこランドでは広報を充実し、インスタグラム(フォロワー数 約5,500人・昨年比約2,700人増)と、新しく公式LINE(フォロワー数 約360人)で来館者増に取り組んだ。

③機関紙の発行

ア.「福祉ライブラリーニュース」(12回 センター内掲示、ホームページなど)

イ.「児童館だより」(月1回、各児童館で発行)

ウ.「学童保育だより」(各児童館、各学童保育コーナーで随時発行)

エ. 各在宅福祉センターで発行する機関紙「すずらんだより」「サルビアだより」「まのしんようネット」「こすもんレター」「なでしこホッと通信」「スマイルなでしこ」

オ.「神戸市障害者スポーツ振興センターだより」(2回、各1,500部)

カ.「点字図書館だより」(6回、各墨字版274部、点字版185部、デジ版132部)

キ.「こべっこランドNEWS」(6回239,700部)

ミッション2 くらしに寄り添う

取り組みの視点・ポイント

困りごとをまっすぐ受け止めます
自分らしく暮らせるように支えます

地域福祉ネットワーク事業・生活困窮者支援

(1) 地域福祉ネットワーク事業

①「地域生活課題への対応と地域での支え合いのしくみづくり」

区社協に配置している地域福祉ネットワークカーが、区役所のくらし支援窓口と連携しながら社会的孤立など福祉的課題を抱える人の個別の相談支援を行った。また、法人統合により職員が地域に出向く機会を増やし、地域住民組織や関係機関とのネットワーク構築の充実、地域での支え合いのしくみづくりを進めた。 ➡資料集 P7

②身近な地域での「居場所づくり」

社会的な孤立を背景として、生活課題を抱える市民を支援することを目的に、各区で、地域とのつながりや役割を感じられる居場所や、就労に向けた体験の場づくりを進めた。 ➡資料集 P7

(2) 生活困窮者支援体制強化事業の推進

「新型コロナウイルス特例貸付」の借受世帯をはじめとする生活困窮世帯への支援を行うため、各区に担当者を配置し、返済が困難な世帯や生活困窮状態が続く世帯へ、償還に関する手続きや生活相談等の支援を行った。

①緊急小口資金借受世帯への情報提供による相談支援

ア. 令和7年12月末をもって、償還期限が来る緊急小口資金借受世帯を対象に、区社協での相談支援につなげることを目的に案内（DM：ダイレクトメール）を送付した。（対象世帯数：393世帯）

イ. 神戸市主催で開催された「フードサポートこうべ」のチラシと当日の相談窓口案内文を特例貸付緊急小口資金借受世帯に対して、郵送で案内し、貸付後のフォローアップ支援につなげた。（情報提供対象世帯数：6,558世帯）

②教育支援資金貸付決定者への図書カード配布事業

進学後の学生生活や卒業後の進路等に関する継続的な相談支援につなげることを目的に、教育支援資金の貸付が決定し、令和8年度に高等学校へ進学する学生に対し、図書カードNEXTを配布した。併せて、対象者のうち、特例貸付借受世帯が含まれる場合は、償還状況を区社協へ共有し、特例貸付借受世帯の現況調査を実施した。

（対象世帯数：107世帯）

(3) 生活福祉資金貸付

低所得、障がい者・高齢者世帯などで、一時的に困窮している世帯に対し必要な費用の一部を貸し付けることで生活を経済的に支えるとともに、自立や社会参加の促進を目指した相談支援を行った。 ➡資料集 P7

(4) ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業

経済的に厳しい状態にあるひとり親家庭の自立促進を支援することを目的に、神戸市からひとり親家庭高等職業訓練促進給付金を受ける世帯を対象として、看護師や介護福祉士等の資格を取得するための養成機関に入学する際の準備金及び取得した資格を活かして就職する際の準備金の貸付を行った。 ➡資料集 P7

権利擁護に関する取り組み

(1) 安心サポートセンターの運営

①権利擁護全般に関する相談

認知症等高齢者や知的・精神障がい者などの判断能力が十分でない方が、生活の中で受ける権利侵害や財産管理に関する不安や困り事などについて、精神保健福祉士や社会福祉士などの専門相談員が相談に応じた。また、弁護士による法律相談を実施した(月2回)。 ➡資料集 P8

②障害者あんしんネットワーク事業

精神障がい者の人権や権利を擁護するため、市内の社会復帰施設や障害福祉サービス事業所、精神科病院の入・通所者等を対象に、日常生活上の悩みや疾病や障がい、施設等での生活上の問題などについて相談に応じた。 ➡資料集 P8

③日常生活自立支援事業(福祉サービス利用援助事業)

判断能力が十分でないなどの理由により日常生活に支障のある認知症等高齢者や知的・精神障がい者を対象に、①福祉サービスの利用に関する情報提供や利用支援、②生活に必要な預貯金の払出・預入及び日常的な金銭管理、③預貯金通帳や有価証券等の貸金庫での預かり等の支援を実施し、定期的な訪問による見守りを実施した。

ア. 相談・調査・契約状況 ➡資料集 P8

イ. 成年後見制度への移行促進

加齢や病状の進行等により成年後見制度の利用を必要とする利用者が、日常生活自立支援事業から成年後見制度へ適切に移行できるよう、成年後見制度移行促進員を1名(週1回)配置し、成年後見支援センターや関係機関・団体等と連携しながら、適切な制度移行の支援を行った。 ➡資料集 P8

ウ. 広報

日常生活自立支援事業の利用促進を図るため、地域団体や関係機関等を対象に個別相談会付き出張説明会を実施し、事業周知や利用促進のための取り組みを行った。

また、特別支援学校の生徒を対象に金銭管理についての出前授業を実施し、卒業後の自立に向けた取り組みへの支援を行った。

出張説明会 13件(うち、個別相談会実施 3件)

出前授業 1件(青陽灘高等支援学校)

エ. 出納業務の効率化

契約件数の増加や金融機関の窓口縮小、手続きのオンライン化に対応するため、集配金サービス付きオンライン入出金機を導入し、適正な運用の仕組みを整備した。

④権利擁護相談支援の体制づくり

地域共生社会の実現に向け、権利擁護支援機能の充実と身近な相談支援体制づくりが求められているため、社協職員として必要な権利擁護の視点や知識の習得、権利擁護支援部と区社協・在宅福祉センター等の連携強化を目的に法人内研修（「地域で取り組む権利擁護」講師 増田 和高氏）を実施した。

⑤高齢者くらしの充実資金貸付事業（リバースモーゲージ）

自宅に住み続けながら、その住まいを不動産担保として生活資金融資を受けた高齢者世帯（1件）を対象に、利子貸付を行った。全ての契約が終了し、年度末を以って事業を終了とする。

⑥こうべ安心サポート委員会の開催

弁護士、医師、公認会計士、福祉関係者、学識経験者等から構成されるこうべ安心サポート委員会及び専門部会を開催し、本会が実施する権利擁護事業に関する審査・監査及び相談、助言等を受け、適正に事業を実施した。

ア. こうべ安心サポート委員会（1回）

議題：専門部会の活動報告、成年後見支援センターの活動状況
安心サポートセンターの活動状況等

イ. 安心生活支援部会・成年後見判定部会（12回）

議題：成年後見の市長申し立てに対する助言 57件

ウ. 権利擁護事業部会

・事業運用審査委員会（6回）

議題：日常生活自立支援事業に関する審議 11件、助言 8件

・監査委員会（1回）

議題：日常生活自立支援事業・法人後見事業の利用者の財産管理監査

エ. 市民後見部会（7回）

議題：成年後見支援センターの運営、市民後見人養成研修、市民後見活動等に関する助言

⑦神戸シルバー法律研究会事務局事業

高齢者・障がい者等の権利擁護に関する調査・研究及び成果の発表を行うことを目的とした「神戸シルバー法律研究会」の事務局事業を実施した。

会 員：弁護士、司法書士、福祉・行政関係者等 26人（令和7年度末）

活動実績：定例会 10回、運営委員会 2回、シンポジウム 1回

シンポジウム「高齢者・障がい者と消費者被害

～くらしを守るネットワーク～」

開催日：令和8年2月21日（土）

参加者：会場 56名、オンデマンド配信申込 128名（視聴延べ 239回）

（2）神戸市成年後見支援センターの運営

成年後見制度に関する相談や申立書類の書き方、手続に関する説明や助言など申立支援等に関する相談援助を行った。専門的知識を要するケースについては弁護士、司法書士、社会福祉士の専門職が相談に応じた（2職種1組でそれぞれ月2回）。

➡資料集 P9

①神戸市市民後見人の選任と活動の監督支援 ➡資料集 P9

第三者後見の新たな担い手として、判断能力が十分でない人の生活を一般市民が社会貢献として支援する市民後見人を養成する「第 11 期市民後見人養成研修」を開催した(受講者 13 名)。

また、市民後見人候補者を対象に研修等を実施し、制度に関する知識の習得や市民後見人同士の交流を促進し資質向上に努めた(市民後見人候補者登録者 110 名)。

受任調整により神戸家庭裁判所へ市民後見人候補者を推薦し、後見活動開始後は監督人として継続的に支援するとともに、後見活動を終了した市民後見人候補者 8 名に対し、事務局長感謝状を贈呈した(受任調整会議 4 回、評価会議 1 回)

②市民後見人候補者による地域での相談機能・広報機能の充実の取り組み

ア. 成年後見制度の利用手続き相談室

各区社協の運営協力を得て、市民に身近な区役所で成年後見制度の相談に応じる「成年後見制度の利用手続き相談室」を全区で開催し、市民後見人候補者を相談員として派遣した(相談員 50 名/年間相談件数 154 件/開設日 145 日)。

イ. 市民後見人による広報啓発活動

市民後見人が地域のつどいの場に出向き、オリジナル動画とチラシを使って成年後見制度の紹介をした。全区で 24 回、延べ 71 名(実動: 23 名)の市民後見人が活動した。

③神戸市と金融機関との権利擁護に関する連携協定にかかる事業の推進

神戸市職員信用組合と連携し、認知症高齢者等への対応に係る情報提供シートの共有などの取組みを開始した。また、ゆうちょ銀行に成年後見制度のパンフレットの配架などの協力を得た。

④神戸市権利擁護支援のための地域連携ネットワーク協議会の開催

国が進める第 2 期成年後見制度利用促進基本計画に基づいて、権利擁護支援のための課題解決に向け、成年後見制度に関わる専門職団体や関係機関の連携強化、情報共有を図るため協議会を開催した。

⑤法人後見事業(法定後見・任意後見)

ア. 法定後見

判断能力が十分でなく他に適切な法定後見人が得られない人を対象に、財産管理や身上保護等を行うため、法人として後見活動に取り組むとともに、後見監督人に就任し市民後見人に助言や指導を行った。

イ. 任意後見

概ね 60 歳以上の方、知的・精神障がい者で契約にあたり意思能力の確認ができる人を対象に、将来自分で判断できなくなったときに備え、本人と本会との間で任意後見契約を締結し、①定期訪問の実施、②判断能力が十分でなくなった場合は任意後見監督人選任の申立て、③任意後見人として財産管理や生活に必要な事務全般の代行を行った。 ➡資料集 P9

⑥広報・啓発

ア. 成年後見セミナーの開催

「任意後見制度について」

講 師: 新神戸法律事務所 弁護士 種谷有希子氏

実施日: 令和 7 年 9 月 2 日(火) 13:30~15:30

申込者数 会場参加:144 名 オンデマンド配信視聴:269 名(視聴回数 333 回)
イ. 出張説明会等への講師派遣

行政や高齢・障害分野の関係機関、福祉関係団体等から講義依頼を受け、講師を派遣した。(延べ 31 件、うち出前トークは 6 件)

ウ. ホームページの運営およびパンフレット等の配布

成年後見制度の利用が必要な人が適切に相談に繋がるようホームページに情報掲載した。また、パンフレットのほか啓発グッズ(クリアファイル・ボールペン)を配布した。(パンフレット等配布 9,942 部)

(3) こうべ終活相談窓口の開設・運営

①終活相談

頼れる身寄りのないシニア世代等への終活(人生の最期をむかえるための様々な準備)支援の充実を図るため、令和 7 年 10 月からこうべ終活相談窓口を開設した。窓口等で終活に関する相談に応じ、将来に備えた準備の重要性の理解促進を図った。また、専門職(弁護士・司法書士)による相談も行い(月 4 回)相続や遺言等の法律上の知識が必要な相談に対応した。区社協においては、地域住民への広報啓発、オンライン相談の場を提供する等相談窓口へのつなぎを実施した。➡資料集 P10

【相談件数】433 件(令和 8 年 3 月末現在)

②終活情報登録制度

意思表示ができなくなった場合等に備え、緊急連絡先や遺言書の保管場所等を神戸市に登録し、家族や警察・医療機関等からの照会に対し、市が登録情報を伝える制度。終活相談窓口及び各区社協の窓口で当該制度の相談・受付を行った。

【終活情報登録者数】29 件(令和 8 年 3 月末現在) ➡資料集 P11

③神戸市版エンディングシートの配布

市が作成した「神戸市版エンディングシート～わたしのこと、これからのこと～」を終活相談窓口と各区社協の窓口で無料配布した。また、終活出張説明会や地域活動の場でも活用を促し、市民の終活への意識啓発を図った。

配布数:計 4,950 枚(内市社協 1,016 枚、区社協 3,934 枚) ➡資料集 P11

④区社協職員向け研修 計 4 回

主に区社協で終活支援事業に関わる職員向けに、終活に関する必要な知識の習得を図るため下記の研修を実施した。➡資料集 P11

⑤広報・啓発

終活への意識啓発を図るため、地域団体、医療・福祉関係等から講義依頼を受け、出張説明会を実施した。

出張説明会 10 件(うち個別相談会実施 1 件)

介護保険サービス等の提供

(1) デイサービス事業【介護保険事業】

西在宅福祉センターでは、認知症の方を対象にした「認知症対応型通所介護事業」を実施した。➡資料集 P11

(2) 居宅介護支援（えがおの窓口）事業【介護保険事業】

要介護者の自立支援を図るため「居宅介護支援事業（えがおの窓口）」を実施し、介護サービス計画（ケアプラン）の作成等を実施した。 ➡資料集 P12

(3) 交流事業の実施【介護保険事業外】

西在宅福祉センターでは、デイサービスの利用に繋がっていない地域の認知症高齢者を対象に、認知症対応型デイサービスで実施するプログラムを体験する機会を提供するとともに、ご家族が認知症や介護について職員や認知症サポーター等ボランティアスタッフと話し合える交流事業として、月1回ほどのぼのカフェを開催した。

(4) 地域包括支援センター（あんしんすこやかセンター）事業

高齢者の身近な総合相談窓口として、地域の特性に応じた地域福祉活動を実施した。（実施センターの名称）

鈴蘭台あんしんすこやかセンター、真野真陽あんしんすこやかセンター

たかとりあんしんすこやかセンター、平野西神あんしんすこやかセンター

①介護予防マネジメント、包括的・継続的なケア体制の確立、総合相談支援・権利擁護支援 ➡資料集 P12

②介護予防支援事業【介護保険事業】

要支援者の自立支援及び介護予防を図るため「介護予防支援事業」を実施し、介護予防ケアマネジメントを実施した。 ➡資料集 P13

③地域における支えあい活動の推進と地域包括ケアシステムの構築

認知症になっても住み慣れた地域で自分らしい人生を最後まで続けることができるように関係機関と連携し、地域での支え合い活動の推進と地域包括ケアシステムの構築を目指して、次の取り組みを行った。 ➡資料集 P13

④地域支え合い推進事業

地域のひとりぐらし高齢者等の見守り体制づくり (件)

	鈴蘭台	真野真陽	たかとり	平野西神
実態把握	172	144	91	247
地域支え合い活動	72	22	19	57
小地域支え合い連絡会開催回数	15	18	31	6

⑤シルバーハウジング生活援助員派遣事業

生活相談・安否の確認・一時的な家事援助・緊急時の対応等の高齢者向公営住宅入居者の生活支援事業を実施した。

○真野真陽あんしんすこやかセンター

・生活相談 54 件 安否確認 2944 件 緊急対応 147 件

・西尻池高層住宅（戸数 98 戸） シルバーハイツ東尻池（戸数 17 戸）

真野ふれあい住宅（戸数 7 戸）

⑥シルバーハウジングにおける高齢者見守り事業

高齢者向公営住宅入居者の生活相談・安否の確認・緊急時の対応等を実施した。

○鈴蘭台あんしんすこやかセンター

・生活相談 19 件 安否確認 193 件 緊急対応 16 件

・鈴蘭台住宅（戸数 36 戸）

認知症支援事業

(1) こうべオレンジカフェ登録事業

市内の認知症カフェの設置を推進し市民への広報を行った。(登録数 53 件)
併せて、フードバンク関西や、UCC ジャパン株式会社の協力のもと物品提供を行った。
また、オレンジカフェ運営者研修会を実施し、運営者等に対して認知症カフェに関する講演会及び体験学習の機会を提供した。
対象者 こうべオレンジカフェ登録団体
実施日 令和 7 年 11 月 4 日
参加者 登録カフェ 25 団体、立ち上げ予定 5 団体、および関係機関

(2) 神戸市高齢者安心登録事業

認知症などで行方不明の心配がある高齢者の情報を事前に登録し、関係機関および兵庫県警とであらかじめ共有した。登録者が行方不明となった場合は早期発見・早期保護のため、地域の協力者に対し電子メールで搜索協力を呼びかけた(24 時間 365 日対応)。

登録者数：2,025 人 搜索協力者数：1,047 人 メール配信依頼数：15 件
(神戸市みまもりシール)

令和 7 年 8 月より、行方不明者の迅速な身元確認と保護につなげるため、高齢者安心登録事業の登録者のうち希望する方(833 人)へ配布した。

シールを確認した市民に対応するためのコールセンターを開設し、11 件の市民からの連絡を受け、警察へ保護を要請した。

(3) 若年性認知症の方への支援

既存の制度だけでは、生活ニーズの充足が困難な若年性認知症の方への支援を行うため、本人や家族が、安心して自己実現や情報交換ができる居場所として、交流の場「ソレイユ」を実施した。

開催日：毎月 1 回実施

会 場：こうべ市民福祉交流センター・中央区文化センター(音楽室) 等で実施

内 容：参加者の希望を聞きながら、音楽会、モルック体験、フラワーアレンジメントや和菓子づくり体験を行った。

参加者：延べ 244 名

障害者地域生活支援拠点の運営

(1) 障害者相談支援センター

障がい者及び障がい児が住み慣れた地域において、障害福祉サービス等を利用し、その有する能力及び適性に応じて自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう支援するとともに、地域の障がい者等の福祉に関する各般の課題について、障がい者等及びその介護を行う者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等を行った。
また、区域レベルにおいては、センターと自立支援協議会との共催による啓発講座の開催やネットワークの構築、地域の事業所との意見交換、その他、地域課題に応じた個別支援会議等を実施した。 ➡資料集 P16

(2) 見守り支援事業

障がい者等が地域で安心して自立した生活を継続できるよう、関係機関と互いに連携して、地域全体で障がい者等を見守る体制の整備を進めた。また、災害時の要援護者の支援体制を構築するための取り組みを始めた。 ➡資料集 P17

(3) 地域生活支援拠点コーディネート事業 ➡資料集 P17

(4) 地域支援機能強化事業

入所施設での研修などを通じて、関係機関の交流促進と地域移行に向けた意思決定支援の理解を深めた。また、地域の実情に応じてグループホーム等の関係機関との連絡会や研修を行ったほか、体験型グループホーム事業の利用調整を行った。

(5) 相談支援機能強化事業

障害者相談支援機能強化専門員が事務局として、障がい者の自立、社会参加の促進及び広報・啓発を目的に設置されている「区自立支援協議会」の運営を担った。

また、協議会での議論や関係機関との情報共有を通じて地域課題の把握・抽出を行い、その解決に向けた検討及び具体的な取り組みを実施した。 ➡資料集 P17

(6) 生活介護・短期入所

北区、須磨区、西区で、生活介護と短期入所事業を行った。また、中央区は、障害者地域生活支援拠点の相談部門を担い、生活介護及び短期入所を担当する社会福祉法人神戸明輪会と共同で運営した。長田区についても相談部門を担い、生活介護及び短期入所は、既存施設である社会福祉法人みらいが運営する「みらいおもいけ園」と連携した。

①生活介護

ア. 利用状況

介護を必要とする方に、昼間、入浴、排せつ食事の介護等を行うとともに、創作活動や生産活動（工賃として作業訓練費の支払い有）などの機会を提供することにより、地域での生活を支援した。

また、施設や保護者の元からの自立等にあたって、地域生活への移行をしやすくするための体験の場としての役割も果たした。

開設時間：9:00～16:00 ※須磨区のみ 9:00～16:30

定 員：20 人

休業日：土・日曜日 年末年始

	北区	須磨区	西区
実利用者数 (令和8年3月31日現在)	33 人	47 人	45 人
延べ利用者	4,021 人	2,990 人	3,710 人

イ. 委員会の各種運営（感染症・虐待・BCP）

法令に基づく感染症対策委員会、虐待防止委員会、危機管理・防災対策委員会の開催ならびに各種マニュアルの見直しや研修を実施した。 ➡資料集 P18

ウ. 共生型サービスの創出

65歳を迎える利用者や特定疾病による要介護認定を受けた40歳以上の利用者が、通いながれた事業所でサービスを継続利用できるよう、介護保険制度に基づく共生型通所介護事業所として指定を受け、高齢障がい者へのサービス提供を実施し

た。(西：1人、須磨：2人)

エ. 各在宅重点取り組み

アート&ワーク活動等で個性を活かした表現活動を行い、アート作品や陶芸、商品づくりなどの制作活動を実施。また、展示会への出展を行うなど社会参加活動実施し、複数の展示会で入選した。 ➡資料集 P19

②短期入所

障がい者の地域での生活を支えるため、短期入所を行った。

また、介護者の急な入院等で在宅生活が困難な障がい者を、緊急で受け入れた。

定 員：5人（別に緊急利用床1床）

休業日：年中無休

	北区	須磨区	西区
契約者数	122人	149人	262人
延べ利用者	2,473人	2,772人	2,752人

(7) 職員育成研修

職員のスキル向上に繋がる研修や、運営上の課題等をリアルタイムに反映した研修を積極的に企画実施した。また、神戸女子大学健康福祉課と連携し、教員ならびに生徒から指導を受けるとともに技術交換の相互研修も実施した。 ➡資料集 P20

(8) 神戸市障害者地域生活支援拠点における「多機能拠点プラス面的整備型」への参画

拠点機能のさらなる充実及び強化を図ることを目的として、民間事業所との連携による「多機能拠点プラス面的整備型」のモデル事業を神戸市とともに実施した。また、西区においては、第2回拠点運営推進会議を開催し、拠点の運営状況や医療的ケア児者に係るアンケート結果の報告、神戸市における面的整備の取組、緊急時の対応事例の紹介等を行い、意見交換を実施した。

障がい者のスポーツ・文化の振興

(1) 障がい者スポーツ大会の開催

障がい者が、競技等を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、市民の障がいに対する理解を深め、社会参加の推進に寄与するため、神戸市や障害者団体、競技団体等とともに各種障がい者スポーツ大会を開催した。

全国障害者スポーツ大会「わた SHIGA 輝く障スポ」（滋賀県）の予選会を兼ねて、第64回神戸市障害者スポーツ大会を開催した。競技の進行は各競技協会の主管のもと、審判員を配置して行った。

種目	開催日	参加者・審判	開催場所
卓球	4月20日(日)	身体障がい者：49人 知的障がい者：103人 精神障がい者：7人 計159人 審判：85人	中央体育館

ボッチャ	4月27日(日)	肢体障がい者：18人 計18人 審判：22人	王子スポーツセンター (体育館)
水泳	5月18日(日)	身体障がい者：15人 知的障がい者：67人 精神障がい者：0人 計82人 審判：30人	市民福祉スポーツセンター
フライング ディスク	5月24日(日)	身体障がい者：29人 知的障がい者：65人 精神障がい者：2人 計96人 審判：19人	しあわせの村 (多目的運動広場)
陸上競技	5月25日(日)	身体障がい者：65人 知的障がい者：177人 精神障がい者：2人 計244人 審判：125人	ユニバー記念競技場
5種目合計		参加者599人 審判：281人	

(2) 障がい者スポーツ大会への選手派遣・参加助成

①第24回全国障害者スポーツ大会「わた SHIGA 輝く障スポ」への選手派遣

個人6種目に出場し、金20個、銀17個、銅10個、計47個のメダルを獲得した。
団体1種目に出場し、銅1個のメダルを獲得した。

開催期間：令和7年10月25日(土)～27日(月)

開催地：滋賀県

派遣人員：選手、コーチ団等 計103人

②第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025

第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025に出場する神戸市選手を対象に激励金を交付した。

開催期間：令和7年11月15日(土)～11月26日(水)

開催地：東京

支援人数：5人(バドミントン、オリエンテーリング、バレーボール、サッカー2名)

支援金額：250,000円

③第33回全国身体障害者野球大会の開催(日本身体障害者野球連盟と共催)

実施日：令和7年5月17日(土)～18日(日)

場所：ほっともっとフィールド神戸、G7スタジアム、若葉学園

参加チーム：16チーム(299人)

関係者：103人(日本身体障害者野球連盟ほか)

④皇后杯 第34回日本女子車いすバスケットボール選手権大会の開催

(日本車いすバスケットボール連盟・日本パラスポーツ協会・日本バスケットボール協会と共催)

実施日 : 令和8年1月17日(土)～18日(日)

場所 : 神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸

参加チーム : 6チーム (64人)

関係者 : 300人 (日本車いすバスケットボール連盟40人、兵庫県バスケットボール協会および市内高校バスケットボール部100人ほか)

(3) 障がい者スポーツ教室の開催

参加者一人ひとりの障害特性や体力に配慮し、安全面に留意しながら運動機会の提供を行った。教室を通して、身体機能の維持・向上だけでなく、参加者同士の交流促進にもつながった。 ➡資料集 P20

①身体障がい児・者スポーツ教室の開催 (小計143人)

②知的障がい児・者スポーツ教室の開催 (小計252人)

③障がい区分なしの教室の開催 (小計89人)

(4) 神戸市障害者スポーツリーダーの養成及び派遣

多くの市民に障がい者スポーツに関わっていただくとともに、地域で障害者スポーツの活動を推進していくため、神戸市障害者スポーツリーダーを養成し、大会や教室へ派遣した。(登録者415人) ➡資料集 P22

(5) 支援学校における放課後クラブ活動及び地域における障害者スポーツ振興事業

①特別支援学校における放課後スポーツクラブ活動

文部科学省スポーツ庁のモデル事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」として実施した。

・対象 : 神戸市立特別支援学校の中学部・高等部の生徒 (5校)

青陽灘高等支援学・灘さくら支援学校・青陽須磨支援学校・友生支援学校
いぶき明生支援学校

・実施期間 : 2025年6月～2026年2月

・実施回数 : 期間中39回

・参加数 : 97人 (期間中、延べ846人)

②障がい者に配慮されたスポーツ施設における運動機会の提供

・行事名 : バスケットボールをしよう (地域スポーツ)

・対象 : 特別支援学校並びに特別支援学級生徒 (中学生・高校生)

・場所 : 市民福祉スポーツセンター体育館

・実施日 : 11月22日(土)、12月6日(土)

・参加数合計 : 35人

(6) こうべ障害者音楽フェア 2025 ジョイフルコンサートの開催

障がいのある方やその家族に質の高い音楽を鑑賞していただくとともに、障がいのある音楽家の発表の場として、事業の趣旨に賛同された11の企業・団体からの協賛のもと、開催した。会場には車いす席と介助者席を設置し、聴覚障がい者のための要約筆記・手話通訳・磁気ループを配備した。19回目となる今回は、障がいのある三線奏者

のグループ、ピアノ奏者、ピアノ奏者とオカリナ奏者のデュオチームによる上質な演奏と、神戸のワクワクロックンロールバンド「ワタナベフラワー」による楽しく華やかなパフォーマンスを行った。

実施日：令和7年12月20日（土）

場 所：神戸新聞松方ホール 来場者 455 人

（7）第9回こうべ障がい者芸術フェスタ HUG+（ハグ・プラス）展 2025 の開催

市内で芸術創作活動に取り組む障がい者から作品を公募し、芸術創作活動の発表の場として、展示環境が整った会場で応募作品 584 点を全て展示することを通して、文化芸術活動を通じた障がい者の個性と能力の発揮、社会参加の促進を図った。優秀作品は、事業の趣旨に賛同された 27 の企業・団体から協賛を得て顕彰し、最優秀賞受賞作品は、毎年、実行委員会で買い取り、こうべ市民福祉交流センターをはじめ外部への展示を行っている。

展示期間：令和7年9月6日（土）～9月13日（土）

場 所：県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー 本館 2 階大展示室

表 彰 式：令和7年9月13日（土）11：00～12：00

原田の森ギャラリー別館 4 階 401 号室

表 彰：最優秀賞 1 点、優秀賞 5 点、審査員賞 5 点、入選 10 点、
奨励賞 5 点 計 26 点

来 場 者：1,894 人

（8）広報・普及啓発

市民の障がい者スポーツへの理解促進を図るため、広報・普及啓発活動を積極的に展開した。

①障害者スポーツ指導員やパラスポーツチームの派遣による啓発

市内の小学校、中学校、大学に当センターの障害者スポーツ指導員やパラスポーツチームを派遣し、障がい者スポーツが体験出来る機会を提供した。（小学校・中学校・大学等計 3 回）

②パラスポーツ王国 HYOGO&KOBE “夢プロジェクト 2025”

（兵庫県・兵庫県障害者スポーツ協会・こうべ市民福祉振興協会と共催）

実施日：令和7年11月9日（日）

場 所：しあわせの村

参加者：延べ（各ブースの参加者数計）1,340 人

関係者：100 人（競技団体 51 人ほか）

神戸ふれあい工房

市内 55 か所の障がい福祉サービス事業所で作られた商品を取り扱い、障がい者の自立と社会参加を応援するショップとして運営した。

外商部門は、NPO 法人知的障害児・者療育サポートセンターくれよんに委託し、各種行事の記念品等の受注と季節のギフトセット販売、出張販売を実施した。

店舗部門は、社会福祉法人みかり会に委託し、就労継続支援 B 型事業所のカフェ「Link tree」の併設店舗で商品販売を行った。

(1) 外商販売 5,841,151 円

- ①「夏ギフト」「クリスマスギフト」「バレンタイン・ホワイトデーギフト」を実施し、神戸市等に対し周知依頼した。
- ②企業等から景品や記念品等の注文を受けて販売した。

(2) 出張販売 314,540 円 (8 件)

企業や地域団体のイベント(神戸レインボーフェスタ、神戸市退職者会総会)や、ジョイフルコンサート、福祉関係者のつどい等で出張販売を実施した。

(3) 店舗販売 3,171,725 円

- ①カフェ「Link tree」の併設店舗にて販売した。
- ②店舗の敷地内を使用して、クリスマスマーケットを実施した。

(4) 広報啓発

- ①ホームページの運用
kViewer を利用した商品紹介や、イベントやギフト商品等について発信した。
- ②Facebook・Instagram の運用
イベントやギフト商品等の情報を掲載した。(投稿回数 37 回)
- ③販売促進ツール
 - ・神戸ふれあい工房のパンフレットを企業などに配布して、事業の周知を行った。
 - ・神戸ふれあい工房に登録している施設・事業所向けに、講師を招いて魅力的な商品づくりに関する勉強会を実施した。
- ④マスコットキャラクター「ふわぼん」を使った啓発活動
「ふわぼん」を利用した消耗品、備品の活用や、事業所紹介「ふわぼん通信」をギフトチラシの裏面に掲載し、SNS で発信した。(3 回)

点字図書館の運営

(1) 情報提供・情報支援事業

視覚障がい者及び発達障がい等の障がいにより書籍等を視覚で認識・理解することが困難な方への情報提供施設として、読書支援や情報入手支援を行った。➡資料集 P22

①点字・録音図書等の製作・貸出・閲覧

当館で製作した点字・録音・テキストデージー図書を利用者に紹介し、貸出・閲覧を行った。➡資料集 P23

②個別の点訳、音訳等サービス、代読・代筆サービス

ア．プライベートサービス(個人依頼による点訳・音訳等)

視覚障がい者が個人的に必要とする資料(取扱説明書、問題集、市バス時刻表等)

の点訳・音訳・テキスト化・テキストデージー化を行った。➡資料集 P23

イ．対面朗読サービス、読み書きサービス

パンフレット、手紙等の代筆・代読をする読み書きサービスや小説や新聞等を対面で朗読する対面朗読のサービスを実施した。(51 回 80 時間)

③中途失明者向け点字教室

中途失明者のための点字講習会を習得レベルごとに開催した。(45 回 延べ 348 人)

④行政情報の点訳・音訳

広報紙 KOBE 点字版・録音版、市会だより録音版を作成し、市政情報を提供した。

⑤録音再生機器の貸出

購入を検討する利用者に録音再生機器を貸出した。(延べ9台)

⑥蔵書製作ボランティアの育成

点訳・音訳及びテキストデイジー図書製作ボランティアの養成講座を開催するとともに、合同研修会等を開催してボランティア活動を支援した。(点字毎日編集部視察ほか) ➡資料集 P23

⑦利用者等への機器に関する情報提供等

障がい者に対する ICT 機器やサピエ(インターネットによる情報提供サービス)の活用支援を行い、情報アクセシビリティの向上を図った。また神戸アイセンター病院の患者を対象に ICT 機器の相談会や生活相談会を実施した。 ➡資料集 P23

⑧サピエを活用した他館との相互貸借

利用者の貸出ニーズに対応するため、サピエを活用して、全国の点字図書館と図書等の相互貸借を行った。

⑨防災メルマガの発行

希望者に防災メールマガジンを発行し、防災に関する情報を発信した。(1回 19人)

(2) 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者連絡会

読書バリアフリー法を踏まえ、障害福祉課、中央図書館など関係各課と連携体制構築に向けた打合せ会を開催した。(5月22日 5課・施設 10人出席)

(3) 公共図書館との連携 ➡資料集 P23

公共図書館と連携し、視覚障害等の理解を深めるため職員研修や啓発活動を行った。

(4) 関係機関、支援団体等との協働事業

児童館やシルバーカレッジ等と連携し、学童・生徒の点字体験事業等を開催するとともに、トライやるウィークの受入を行い、福祉学習を推進した。

こども・子育て支援

(1) こべっこランドの運営

神戸市唯一の大型児童センターとして、神戸ならではの子育てが楽しめる環境づくりを目的に、こどもが安全に思う存分遊ぶことができるあそび場の整備や健全育成事業・発達支援事業・啓発連携事業を進めるとともに、子どもに寄り添い支える人材の育成・支援として、市内120館の児童館支援に取り組んだ。

また令和7年度は団体利用の促進、料理教室開催数の増加、平日イベントの充実などの事業拡充及び広報充実により来館者増につなげた。

	開館日数	年間入館者数	平均入館者数	入館者数累計
令和7年度	308日	435,680人	1,416人	12,748,146人
令和6年度	306日(1日閉館)	337,820人	1,104人	12,312,466人
令和5年度	307日(2日閉館)	498,437人	1,624人	11,974,646人

①健全育成事業

0歳から18歳未満のすべての児童を対象とした児童福祉施設として、特に平日親子プログラム、中高生を対象とした居場所機能及びイベント、家族を対象とした防災啓発事業、楽しく体を動かすプログラム（ミズノスポーツサービス株式会社）などの充実を図り、幅広い年代に向けた健全育成事業を実施した。➡資料集 P24

②発達支援事業

障がい児や発達がゆっくりなこどもとその保護者を対象に、居場所事業、障がい児のきょうだい支援事業、臨床心理士による子育て相談を実施した。また、子育て中の保護者、保育や療育の現場で活躍する専門職、ボランティアに対して各種教室・講座・研修を行った。➡資料集 P25

③啓発連携事業 ➡資料集 P27

健全育成事業、発達支援事業の実施にあたりボランティア活動や福祉的要素を組み込んだ事業による福祉啓発や、地域団体等との連携による地域活性化を図った。

④児童館支援事業

児童館の支援を目的に、臨床心理士が児童館を巡回し児童館職員に発達障がい児等育児に関するカンファレンスや助言、児童館に来館する発達がゆっくりな乳幼児親子への相談支援、遊びや子育て支援プログラムの提供、児童館職員研修を実施した。

➡資料集 P27

⑤団体利用の促進

多様な団体の活動を通じて、より多くの交流ができる機会の拡大や来館者増を図るため、施設利用に係る経費等の一部を助成した。助成件数：7件

⑥広報活動の充実

子育て世代への周知を図るため、多様な広報媒体の活用を図った。特にSNSツールを活用した広報活動に注力し、インスタグラムやLINEを活用した広報活動に努めた。

パンフレット発行数：合計 239,700 部

こべっこランドホームページ年間アクセス数：978,002 件

インスタグラム投稿数：269 回、VIEW回数：1,644,781 回、フォロワー：5,508 人

LINE登録者数：364 人

（２）地域の子育て支援

子育てしやすいまちづくりをめざし、身近な地域で子どもたちの育ちを支援するため、各区に子育てコーディネーターを配置し、こどもの居場所づくり、地域の子育て人材の育成及び関係機関や子育て支援者等とのネットワークづくりの推進を行うとともに、児童館及び学童保育施設（以下、「児童館等」という。）の運営支援を行った。

①地域の子育て支援事業推進業務

ア．こども・子育てサポート事業

地域におけるこども・子育てニーズや課題に応じた支援を行うために、子育て親子の交流促進や、地域の子育て関連情報の提供と相談・援助体制の整備を行った。

イ．児童館等の支援業務

a) 巡回支援・相談支援

児童館等の地域における子どもの健全育成及び子育て支援業務の活性化等において、巡回により現状把握を行うとともに、必要な支援・相談を行った。

巡回訪問回数 234 回（指定管理者の変更から 3 年以内の児童館等の巡回含む）

b) 登録センターKOB（放課後児童支援員等登録センター）の運営

市内学童保育施設への就労希望者のWEB登録等、学童保育施設の採用活動への必要な支援を行った。

ウ. 児童館等職員相互の連携推進

各区の児童館等の職員を対象とした研修の実施や連絡会の開催等、意見交換や情報共有が行える場を設け、職員同士のつながりの構築を図った。

a) 児童館職員研修の実施

事業運営や今日的な課題への対応力の醸成を図るための研修を行った。

➡資料集 P28

b) 連絡会・情報交換会等の実施

喫緊課題に関する情報提供、研修のフォローアップ、職員同士の相互交流、関係期間との連携推進等を行うための連絡会等を開催した。➡資料集 P28

②こどもの居場所づくりの全市展開推進事業

子どもたちが放課後等に食事や学習などを通して、安心できる居場所づくりを実施する地域団体等に対して、活動の拡充のための総合的な支援及びコーディネートを行うことにより、地域における子どもや子育て世帯の見守りの充実を図った。

また、こどもの居場所が多世代交流や地域の子どもたちへの経験や出会いの提供の場となり、地域課題への包括的なアプローチの促進を行った。

ア. こどもの居場所づくり支援

こどもの居場所づくりを実施している団体の活動状況を把握し、活動継続に必要な支援につなげるとともに、新たにこどもの居場所づくりを実施しようとする団体へは、実施場所の調整、地域団体等との顔つなぎ、必要な情報の提供、広報支援等、各種支援を行った。

イ. コーディネート機能の強化

こどもの居場所支援のための職員を配置し、事業担当者連絡会での課題や成功事例の共有等によりし、支援方法の拡充を図った。➡資料集 P29

ウ. 企業との協働

コープこうべとの協定に基づき、各区の店舗を寄附物品の配送拠点として活用した。（52 件・延べ 348 団体）

エ. こどもの居場所にかかるプラットフォームの運営

ポータルサイト「こども地域応援ネットワーク KOB」での寄附物品マッチングシステムの運営や、活動団体が継続支援に資する有益な情報の提供により 158 件の寄附物品を受入れ、延べ 840 団体へ寄附物品の受渡しを行った。

（3）児童館の運営

児童館運営の一層の充実を目指し、児童健全育成事業の推進、子育て支援事業の推進、地域連携の推進・地域とのネットワークづくりを通して、地域に身近な子育て支援拠点

である児童館の管理運営に取り組んだ。

また、令和7年度に押部谷、枝吉、玉津児童館の3館は新たな運営事業者に移管した。→資料集 P29

①子ども育成事業

日々の遊びや様々な行事を通して、子どもの健全育成を図るとともに仲間づくりや心と体の育ちを支援した。また、楽しく魅力ある児童館になるよう児童館内外の環境整備に努め、子どもたちに豊かな遊びを提供した。

②子育て支援事業

ア．乳幼児向け親子プログラム

a) 子育てチーフアドバイザーの任命

乳幼児を中心とした子育て支援の責任者として、1名を子育てチーフアドバイザーに任命し、相談体制の強化・充実を図った。(全館)

b) 乳幼児向け親子プログラムの毎日実施

月～土曜日まで、乳幼児の親子が過ごせる取り組み(プログラムやメニュー)を実施するとともに、いつでも利用できる施設としての周知を図った。(全館)

イ．放課後児童クラブ(学童保育)

保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生を対象に、放課後の遊びや生活の場を提供。子育てと仕事の両立支援や児童の健全育成を行った。

	実施箇所数	登録児童数 (R8.3月)	年度平均 登録数
児童館	26館	1,459人	56人
学童保育コーナー・分室	21コーナー・1分室	1,241人	56人
合計	48箇所	2,700人	56人

※1 学童保育コーナーの新設(こうべ学童保育コーナー)

※2 兵庫児童館の過密解消のため、兵庫分館を設置

※3 学童保育リーダーの配置拡大(登録児童数に関わらず配置へ)

※4 過密解消のため地域福祉センター等の一時利用(魚崎)

※5 夏休み限定の学童保育受け入れ(ひよどり台、小部コーナー(すずかぜ分室)、志里池、垂水、玉津、押部谷、岩岡コーナー)

※6 長期休業中の昼食提供 31施設で実施

※7 生田川、すずらんだい、長尾児童館は学童保育非実施

③放課後こどもひろば事業(5か所実施)

放課後児童クラブ(学童保育)と神戸っ子のびのびひろば(放課後子供教室)を包括的に運営した。(人)

実施場所(小学校)	灘	和田岬	鈴蘭台	高丸	長坂	合計
延べ参加児童数	3,300	4,295	1,646	3,410	9,047	21,698

④児童館子育て相談事業

昨年度からの子育てチーフアドバイザー配置により相談件数が増加した。

17,193件(R6:11,023件 R5:8,356件)

⑤拠点事業（旧：拠点児童館事業）

児童問題に関する専門性を有する児童館 3 館を「拠点事業実施館」と位置づけ、こべっこランドと連携した子育て専門講座や指導者・従事者向け講座を継続事業として実施した。また、発達の気になる子どもと保護者の支援等に取り組んだ。

ア．子育て専門講座

講座	実施館	参加者数
赤ちゃんとのふれあい講座	魚崎・河原・垂水	42 組

イ．指導者・従事者向け講座

講座	実施館	参加者数
保育現場で活かす感覚運動あそび	垂水・魚崎	延べ 43 人
保育現場で活かす インリアル・アプローチ	河原	延べ 25 人

ウ．発達の気になる子どもの居場所（Jidoukan-cafe（通称：ジェイカフェ））

発達の気になる子どもと保護者が安心して過ごせる場の提供や、保護者同士の交流を図ることを目的として行った。

エ．自主事業（地域特性・ニーズをふまえた事業）

・J-family（魚崎）、赤ちゃんすこやか、防災体験、こどもヘルパー（河原）、不登校事業、スタディスタンプ（垂水）

⑥キャナルタウンおやこひろば

就学前の乳幼児とその保護者が、ゆったりと過ごせる居場所の提供を行った。

⑦おやこふらっとひろば垂水

神戸常盤大学（学校法人玉田学園）に運營業務を委託し、専門資格を持った支援スタッフを常駐させ、専門的な子育て支援を行った。

⑧子育てコミュニティ育成事業（児童館日曜日等開放）

地域の各種団体やボランティアで構成する「開放委員会」等が実施する児童館の日曜日等の開放や地域子育て行事などの「子育てコミュニティ」事業の支援を行った。

（29 館：全館実施）

（4）神戸市子ども会連合会（市子連）事務局の運営

地域の子ども会活動の活性化を図るため、事務局の運営を神戸市子ども会連合会から受託し、神戸市への補助金申請や市子連理事会、常任理事会の運営を中心に活動をサポートした。 ➡資料集 P30

地域福祉施設の管理運営

市民の福祉活動推進拠点である総合福祉センター、こうべ市民福祉交流センターの管理運営を行った。年度末をもって指定管理期間が満了し、事業を終了した。

（1）総合福祉センターの管理運営

①貸会議室利用状況

室 名	第 1 会議室	第 2 会議室	第 3 会議室	第 4 会議室	第 5 会議室	合 計
利用件数	643 件	530 件	640 件	562 件	630 件	3,005 件

②社会福祉研修室利用状況

室 名	第 1 研修室	第 2 研修室	第 3 研修室	第 4 研修室	第 5 研修室	合 計
利用件数	452 件	467 件	362 件	438 件	487 件	2,206 件

③障がい者福祉センター会議室等利用状況

室 名	A 会議室	B 会議室	C 会議室	体育室	合 計
利用件数	539 件	534 件	687 件	560 件	2,320 件

④障がい者福祉センター駐車場利用状況

利用台数	5,486 台
------	---------

※③、④は障害者福祉センターの委託業務

(2) こうべ市民福祉交流センターの管理運営

貸室利用状況

室 名	件 数	室 名	件 数
201 教室	442 件	401 研修室	—
301 教室	358 件	402 研修室	—
302 教室	345 件	403 研修室	—
303 教室	269 件	501 研修室	459 件
304 教室	—	502 研修室	419 件
介護実習室	222 件	503 研修室	409 件
調理実習室	14 件	合 計	2,937 件

※304・401・403 教室は貸室利用なし

神戸市介護サービス協会事務局の受託

(1) 協会の概要

介護保険制度に関係する団体が連携し、介護保険に関係する情報共有や各分野に共通する課題検討、サービスの質の向上への取り組みを行った。

(2) 構成団体 (7 団体)

神戸市老人福祉施設連盟、神戸市介護老人保健施設協会、神戸市民間病院協会、神戸市シルバーサービス事業者連絡会、神戸市医師会、神戸市歯科医師会、神戸市薬剤師会

(3) 協力団体 (4 団体)

兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会神戸ブロック、神戸市ケアマネジャー連絡会、神戸市リハ職種地域支援協議会、兵庫県栄養士会

(4) 主な事業

介護現場における多職種連携の課題を検討するとともに、オンラインを活用した研修会を開催するなど、介護人材育成に取り組んだ。

①総会、理事会、運営委員会等開催

総会 (1 回)、理事会 (2 回)、運営委員会 (5 回)、神戸市との意見交換会 (2 回)

②部会開催

居宅介護支援サービス部会 (6 回)、在宅サービス部会 (6 回)、施設サービス部会

(6 回)

③研修会の実施

全体研修会 (3 回・オンライン開催/対面開催)

サービス提供責任者研修会 (3 日コース×1 回)

オンラインセミナーシリーズ (3 回シリーズ×10 回)

④協会事業の広報

ホームページの運営、公式 LINE アカウント

⑤神戸市高齢者介護士認定事業の実施

神戸市高齢者介護士委員会 (3 回)、実務者会 (5 回)

神戸市高齢者介護士講習会 (4 回)

神戸市高齢者介護士認定試験 (1 回)

ミッション3 つながり、支え合う

取り組みの視点・ポイント

支え合い活動につなげるために、話し合う場を作ります

支え合い活動のしくみを創り出します

支え合い活動が地域に根付くように応援します

違いや文化を認め合う地域を目指します

(1) 市区社協の総合力を高めるための取組み及び支援の強化

①全市的な地域福祉課題に対する事業調整と支援

地域活動の創出と参加支援を軸とする職員を配置し、地域資源の開発と参加支援の実践を進めるとともに、各分野の職員間で課題を共有し、社協の総合力で対応する体制づくりを推進した。

②地域の社会資源情報の整備と支援活動のシステム構築と分析

個別支援と地域支援を一元管理する地域福祉推進支援システムを構築し、地域資源情報の集約やデータに基づく支援を行う体制を整えた。

③地域福祉推進担当者への研修の企画

地域に出向く業務を行う区社協職員（Aゼミ）と管理職（Bゼミ）を対象としたゼミナールを各6回開催し、ゼミで学んだ知識や援助技術を実際に地域で実践し、取組内容の報告会を行った。

④部課長会、各専門職の担当者連絡会の開催

年間計画や必要に応じて、部課長会、各専門職の担当者連絡会を開催した。

⑤地域福祉部会の開催

区社協代表者等による地域福祉部会を年2回開催し、各区の特色に応じて実施している事業等の情報共有を行った。また、区社協の常任委員会の会長、副会長を対象に研修会を開催した。

(2) 地域支え合い活動推進事業の推進

サービス提供主体の多様化と地域資源の充実に向けた「生活支援体制整備事業」を全市で実施した。

①生活支援コーディネーターの配置

区社協に生活支援コーディネーターを配置し、地域の関係団体のネットワークによる課題や資源の情報共有、地域に不足するサービスの立ち上げを支援した。

②協議体機能を有する会議などの運営

協議体機能を有する会議などを区社協の生活支援コーディネーターが中心になって、高齢者の生活支援に関わる住民組織・事業者・NPO・社会福祉法人・行政などの地域の関係団体のネットワークづくりと新たな資源開発の場として運営し、高齢者の生活ニーズの現状と地域資源の情報などを共有し、地域で不足するサービスの立ち上げ支援、担い手不足などの課題に対して共通認識を持った。（全市開催実績 8回）

③つどいの場支援事業の推進

地域住民などによって自主的に運営され、身近で高齢者のだれもが自由に参加できる、「つどいの場」を充実させるため、区社協の生活支援コーディネーターを中心に、運営に関する助言や情報提供、活動について現状・課題などの把握を行い、つどいの場が継続するよう支援を行った。（申請 276 グループ）

④生活支援コーディネーターの対応力向上

ア．生活支援コーディネーター連絡会を月 1 回開催し、地域支え合い活動推進事業の進捗状況や地域福祉活動推進のための取り組みに関する情報交換と課題の協議などを行った。

イ．新任オリエンテーションおよび全体に向けたスキルアップ研修を開催した。

（３）地域資源情報（つどいの場・通いの場）の集約

地域住民やボランティアによるつどいの場や通いの場の活動などの地域資源をあんしんすこやかセンターと連携しながら全市的に把握し、一元管理するための集約・更新を継続的に行った。

（４）重層的な見守りネットワーク構築の推進

ひとり暮らしの高齢者などを対象に見守り活動、閉じこもり防止活動や日常生活支援活動について、きめ細かな支援を行うとともに、関係者の協力のもと全市的な支え合い活動を支援した。主な取り組みとして、各区における民生委員・児童委員の協力による「高齢者見守り調査」や見守り活動の支援、また、ボランティアによる友愛訪問活動（全市：1,030 グループ）やふれあい給食活動（全市：219 グループ）、テレホンサポート事業（全市ボランティア数：65 名）を実施し、住民による見守り活動を支援した。

（５）神戸市民生委員児童委員協議会事務局の運営

①事業内容

神戸市民生委員児童委員協議会の運営を担い、区民児協の連絡調整、民生委員・児童委員の資質向上のための研修会などの開催、関係機関との連絡調整、全国会議などへの参加調整、表彰及び慶弔に関する事務並びに、互助共済事業を行い、会員に対して共済給付を行った。

ア．常任理事会（民生委員児童委員部会）などの開催

毎月 1 回 第 3 木曜日開催（11 回）、理事会 2 回

イ．全国会議などへの参加調整

指定都市社協・民児連連絡協議会（1 人）

近畿ブロック府県・指定都市民生委員・児童委員関係事業会議（9 人）

全国民生委員児童委員大会（9 人）

全国児童委員・主任児童委員活動研修会（3 人）

民生委員・児童委員リーダー研修会（2 人）

全国民生委員指導者研修会（3 人）

ウ．表彰及び慶弔に関する事務

全国民生委員児童委員連合会会長表彰（2 団体および 289 人）

全国社会福祉協議会会長表彰（16 人）

エ．各種民生委員児童委員研修会などの開催と参加調整

物故民生委員・児童委員顕彰碑合祀祭、社会福祉大会、地区民生委員児童委員協議会会長研修会など

オ. 民生委員共済給付金の交付 ➡資料集 P31

カ. DX の推進

全民生委員・児童委員にタブレット端末を配付しコミュニケーションツールを活用して活動記録の報告など、民生委員活動の DX を進め、業務効率化、負担軽減を図る支援を行った。

②民生委員・児童委員活動の推進

社会福祉協議会として民生委員・児童委員活動を推進するため以下の事業を実施した。

ア. 地区民生委員児童委員協議会会長研修会

イ. 民生委員互助事業の実施

民生委員活動の振興をはかることを目的に、全国社会福祉協議会の実施する民生委員互助事業について、弔慰、見舞・退任慰労などに関する給付事務を行った。

➡資料集 P31

(6) 障害者福祉基金を活用した助成事業

障害者福祉基金を活用し、障がい者のスポーツ・文化・福祉活動への助成、障がい者・児を対象とした事業所への助成を行った。

また、障がい者の自立と社会参加を目指し、「神戸ふれあい工房」を拠点に、障がい者施設・就労支援事業所の商品の紹介・販売を促進した。

①文化・福祉活動への支援

ア. フェスピック事業助成

障がい者の社会参加及び地域とのふれあい交流を目的とした事業を実施する団体、事業所、施設に助成を行った。

令和 7 年度	64 件 3,316,000 円
令和 6 年度	71 件 3,376,000 円

イ. 障害者文化振興事業助成

障がい者の文化活動を通じて、社会参加や地域とのふれあい交流を推進することを目的とした事業を実施する団体に助成を行った。

令和 7 年度	559,166 円
令和 6 年度	621,684 円

②機能訓練及び就労・自主製品開発改善などのための助成事業（清水事業助成）

知的障がい者（児）の福祉向上を目的とした事業を実施する団体・施設に助成を行った。

令和 7 年度	54 件 3,102,000 円
令和 6 年度	58 件 3,118,000 円

③その他の助成

神戸ふれあい工房の自主製品販売運営費として障害者福祉基金から助成した。

令和 7 年度	1,295,695 円
---------	-------------

令和 6 年度	1,004,902 円
---------	-------------

④SOCI0-R00TS 事業助成

三菱電機 SOCI0-R00TS 基金からの寄付を活用し、障がい児・者を対象に緊急を要する設備の改修や環境整備に必要な備品の購入、通所施設において支援者の技能習得などを目的とする研修に対して助成した。

令和 7 年度	2 件	730,000 円
令和 6 年度	4 件	1,302,000 円

⑤次世代育成・障害者社会参加支援事業助成

障害者福祉基金を活用して、障がい者の社会参加支援を目的としてバスを利用した事業に対して、バスの利用料金の一部を助成した。

令和 7 年度	12 件	227,740 円
令和 6 年度	14 件	280,000 円

(7) 児童福祉基金を活用した支援

①唐川修学助成金による施設入所児童への高校修学助成

児童養護施設、母子生活支援施設に入所中の児童に対し、高校に進学する際の入学一時金などの助成を行った。

令和 7 年度	18 件	2,110,000 円	令和 6 年度	26 件	2,970,000 円
---------	------	-------------	---------	------	-------------

②民間社会福祉団体への事業助成

市域を対象とする児童健全育成事業に対し、助成を行った。

令和 7 年度	15 件	1,440,000 円	令和 6 年度	13 件	1,250,000 円
---------	------	-------------	---------	------	-------------

③生駒大学入学一時金給付事業

児童福祉施設、母子生活支援施設に在籍中の児童、または里親家庭に委託されている児童に対し、大学に進学する際の入学一時金として1名につき30万円を給付した。

令和 7 年度	19 件	5,700,000 円	令和 6 年度	13 件	3,900,000 円
---------	------	-------------	---------	------	-------------

④「生駒温子」児童福祉事業助成

次世代を担う児童の健全育成とすべての児童が幸福に成長できる環境づくりを推進するために、民間福祉団体が実施する事業・活動への助成を行った。そのうち公募助成では、様々な課題を抱える児童や外国につながる児童への支援事業に対して助成した。

令和 7 年度	6 件	1,400,000 円	令和 6 年度	5 件	1,140,000 円
---------	-----	-------------	---------	-----	-------------

⑤ひまわり奨学金

経済的な理由により修学困難な私立高校に在籍する生徒の支援を目的に神戸新聞厚生事業団が実施する「ひまわり奨学金」事業に対して助成を行った。

令和 7 年度	2,400,000 円	令和 6 年度	2,400,000 円
---------	-------------	---------	-------------

⑥かごめ奨学金助成

児童養護施設から自立した大学生の大学院進学を援助することにより、大学院生が学業に専念できるよう奨学金を給付した。

令和 7 年度	2 件	1,680,000 円	令和 6 年度	1 件	840,000 円
---------	-----	-------------	---------	-----	-----------

⑦SOCIO-ROOTS 事業助成

三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金からの寄付を活用し、食育の場としての子ども食堂を運営する団体へ、食材管理に必要な冷蔵庫が故障したため購入費用の助成を行った。

令和 7 年度	1 件	350,000 円	令和 6 年度	0 件	0 円
---------	-----	-----------	---------	-----	-----

⑧世良美術館記念・世良臣絵児童福祉助成

児童福祉施設に在籍中の児童が就職し、施設から自立する際に必要となる費用の一部として、1 名につき 20 万円を給付した。＜令和 7 年度新設＞

令和 7 年度	2 件	400,000 円
---------	-----	-----------

(8) 善意銀行を活用した児童就学支援

児童養護施設、母子生活支援施設に入所中の児童に対し、専修学校などに進学する際の入学一時金などの助成を行った。

令和 7 年度	4 件	1,200,000 円	令和 6 年度	2 件	600,000 円
---------	-----	-------------	---------	-----	-----------

(9) 次世代育成・障害者社会参加支援事業助成

児童福祉基金を活用して、次世代育成支援を目的としてバスを利用した事業に対して、バスの利用料金の一部を助成した。

令和 7 年度	138 件	2,760,000 円	令和 6 年度	146 件	2,920,000 円
---------	-------	-------------	---------	-------	-------------

(10) 善意銀行の運営

金銭、物品を善意銀行で受け入れ、福祉活動を行っている団体・施設に払い出しを行った。➡資料集 P31

(11) 共同募金運動・歳末たすけあい募金運動の推進

市内 9 区が行う「共同募金運動」及び「歳末たすけあい募金運動」の活動推進支援を通じて福祉活動の基盤づくりに努めた。➡資料集 P32

①共同募金活動（期間 令和 7 年 10 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日）

※実績額のうち期間拡大分（令和 8 年 1 月～3 月）

②歳末たすけあい募金（期間 令和 7 年 12 月 1 日～12 月 31 日）

(12) 地域の子どもの福祉のための助成事業の調整

兵庫県共同募金会が行う「地域の子どもの福祉のための助成事業」について、神戸市域の助成事業に関する広報、申請受付、助成決定審査、助成団体からの報告事務を行った。

※「地域の子どもの福祉のための助成事業」とは 令和元年度から企業より社会貢献活動として中央共同募金会を通じ、兵庫県共同募金会に「貧困や虐待などに苦しむ子どもの支援」を目的に寄付をいただき「地域の子どもの福祉のための助成事業」として、神戸市域で当該活動を行う施設や団体へ配分した。

【令和 7 年度配分実績】62 施設・団体 33,930,000 円

(13) 社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）への加盟

各区で組織されている社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）に加盟し、地域公益活動に取り組んだ。

(14) 民間社会福祉施設の振興

施設部会において、社会福祉法の改正、社会福祉法人の公益的活動など、新たな国の方針に対応した社会福祉法人・社会福祉施設運営の課題について協議を行った。

また、民間社会福祉施設の職員処遇の向上と経営安定を図るため、退職手当共済及び福利厚生事業を実施するとともに、施設行事・運営の支援を行った。

①施設部会の開催

神戸市への予算要望などを通じて民間社会福祉施設の諸課題に取り組んだ。

②人材確保・定着のための支援

ア．民間社会福祉施設職員退職手当共済事業

神戸市内の民間社会福祉施設の経営者ならびに従事職員の相互扶助を目的とした退職手当共済事業を健全な財政状況を維持（責任準備金に対する積立水準は106.7%）しながら運営した。

加入施設数：417施設 加入者数：10,545人

退職者数：1,051人（給付金：824,861,445円）

イ．民間社会福祉事業職員福利厚生事業

国内研修費を各種別施設連盟に助成し、社会福祉士・介護福祉士などの国家試験合格者に祝金を給付し、勤続15年の職員に永年勤続記念品を贈呈した。

また、家庭用常備薬や自動車保険・火災保険などの集団扱制度の斡旋を実施した。

国内研修費の助成：10 連盟（784,971 円）

合格祝金の給付：143 人（429,000 円）

永年勤続記念品の贈呈：128 人（1,083,280 円）

③民間社会福祉施設職員激励会

施設に勤務する職員の日頃の労をねぎらい勤続5年の市長感謝状を贈呈するための激励会を開催した。

実施日：令和7年7月8日(火)

会 場：神戸メリケンパークオリエンタルホテル

参加者：178 人

④施設運営助成の実施

各連盟実施行事・研修などへの助成 9 件

⑤新春福祉関係者のつどい

市内の福祉施設や福祉団体の関係者が一堂に会し交流と親睦を深めた。

実施日：令和8年2月4日(水)

会 場：神戸ポートピアホテル

参加者：336 人

(15) 神戸市社会福祉大会の開催

市民の福祉推進の決意を新たにするとともに、社会福祉事業の協力者、功労者の功績を顕彰する社会福祉大会を開催した。

理事長感謝状受賞者	社会福祉事業協力者	金品の寄贈	10 人、17 団体
		奉仕活動	71 人、91 団体
	永年勤続功労者	270 人	

Ⅱ-1 各区社会福祉協議会の事業報告

■区社協において共通で実施した事業

ミッション1 気づき・共感を育む

- (1) 福祉教育の推進・・・本編 P1(2)
- (2) ボランティアセンターの運営・・・本編 P2(5)
- (3) 共同募金委員会への支援・・・本編 P30(11)
- (4) ホームページの運営・・・本編 P 5(14)
- (5) 手話入門講座等講座の実施

当事者団体・手話サークル等と協力し、厚生労働省カリキュラムに準じた手話入門講座を開催した。

ミッション2 暮らしに寄り添う

- (1) 地域福祉ネットワーク事業・・・本編 P6(1)
- (2) 生活困窮者支援体制強化事業・・・本編 P6(2)
- (3) 生活福祉資金の貸付相談及び受付・・・本編 P6(3)
- (4) 地域における子育て支援・・・本編 P20(2)
- (5) こどもの居場所づくりの支援・・・本編 P20(2)
- (6) 成年後見制度の利用促進・・・本編 P9(2)②
- (7) 終活支援事業(頼れる身寄りのないシニア世代への支援)・・・本編 P10(3)
- (8) 総合相談の実施(心配ごと相談所の運営等)

民生委員児童委員協議会と協力し、区役所や地域交流センター等で身近な困りごとを相談できる相談窓口を開設した。

(9) 車いすバンクの運営

区社協窓口や地域の協力施設等に車いすを配置し、一時的に車いすを必要とする方に無料で貸し出しをした。

ミッション3 つながり、支え合う

- (1) 地域福祉活動の推進・・・本編 P26(1)、P27(4)
 - ①多様なネットワークを活かした地域生活課題の発見機能、相談対応機能の充実
 - ②地域生活課題に向き合う地域づくり
 - ③地域社会とつながる居場所等の充実
- (2) 地域支え合い活動推進事業(生活支援体制整備事業)・・・本編 P26(2)
- (3) 民生委員・児童委員の活動支援との連携・・・本編 P27(5)
- (4) ひとりぐらし高齢者等友愛訪問活動の支援・・・本編 P27(4)
- (5) 高齢者ふれあい給食会活動の支援・・・本編 P27(4)

(6) 高齢者見守り活動事業（高齢者見守り調査事業）・・・本編 P27(4)

(7) テレフォンサポート事業の実施

ひとりぐらし高齢者など、電話による見守りを希望する方に対し、ボランティアが電話による安否確認を実施した。

(8) 善意銀行の運営・・・本編 P30(10)

(9) 寄附金を活用した団体等への支援・・・本編 P30(12)

(10) 社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）への参画・・・本編 P30(13)

(11) 自立支援協議会への参画

障がい者の自立、社会参加の促進及び広報・啓発を目的に設置されている「区自立支援協議会」に参画し、地域課題の解決に向けた検討及び具体的な取り組みに協力した。

Ⅲ-2 取り組む事業の内容

【東灘区社会福祉協議会】 独自事業重点項目

ミッション1 気づき・共感を育む

(1) 地域福祉推進委員会を通じた地域課題の把握

実施回数：1回(令和7年11月17日) 参加者数：28人

実施内容：「無理しない ケアシェアされる地域づくり」をテーマの講演、及び各委員が地域で活動している中での気づき・課題・提案についての意見交換

(2) 公式LINEの開設、及びLINEを活用した情報発信の充実

開設時期：令和7年7月 登録数：230人 投稿数：27件

(3) 地域活動の支援

①地域活動に必要な広報物のための「印刷機・紙折機貸出事業」 貸出件数：延べ153件

②地域活動に供するための「レクリエーショングッズ貸出事業」 貸出件数：延べ33件

ミッション2 ぐらしに寄り添う

(1) 幅広い相談を受け止める窓口体制

区社協職員の協力体制のもと、関係部署や機関とも連携し、チームで様々な区民や地域の困りごとを受け止め、福祉課題の解決に取り組む。

(2) こどもの居場所マップの作成、配布

発行部数：4,000部 配布先：174カ所(地域団体/学校/関係機関など)

こどもの居場所掲載数：35カ所

(3) 児童の保護者の交流の場「なかよしキッズ」の実施

実施回数：11回 参加者数：延べ35人

実施内容：発達が気になるこどもを持つ保護者同士、育児の不安や悩みを共有し、情報交換できる場(特別支援教育士を招き育児のアドバイスも行う)

(4) 児童館に助産師等を派遣する「おしゃべりほっとタイム」の実施

実施回数：22回 参加者数：こども 延べ138人、大人 延べ129人

実施内容：専門家からのアドバイスや保護者同士の意見交換の場の実施

(5) 貸出用車椅子の利用促進

実施内容：地域福祉センター(現:地域交流センター)や社会福祉法人連絡協議会加盟施設に、より身近な地域の車いす貸出窓口として協力を依頼

貸出件数：事務局 257件、センター等協力施設(40か所) 236件

(6) 終活セミナーの実施

実施回数：1回(令和8年2月14日) 参加者数：58人

実施内容：「家族の未来をつなぐ～親子・夫婦の遺言書セミナー～」をテーマの講演会

ミッション3 つながり、支え合う

(1) 地域担当制によるニーズ把握、地域支え合いグループ支援（新規グループの組織化）

①地域団体へのヒアリングの実施

実施件数：40件（地区民児協、単位婦人会、ふれあいのまちづくり協議会）

②地域支え合い活動の新規グループ・活動の組織化

組織化数：17件（高齢者のつどいの場5件、こどもの居場所3件、男性の居場所1件、多世代の居場所1件、ふれあい喫茶1件、友愛2件、グリーフケア1件、ボランティア活動グループ3件）

(2) 高齢者と児童の心をむすぶ「おむすびカレンダー」配布事業

作成部数：3,000部 協力：小学校14校、児童館10館、学童コーナー(分室)10か所

実施内容：区内小学校・児童館等のこどもたちが作成したカレンダーを、近隣施設や日頃お世話になっているボランティア等に手渡しし交流をはかる

(3) 赤い羽根共同募金配分事業

①地域福祉活動に取り組む団体が行う事業へ助成 件数：15件

②「ひがしなだ地域福祉活動応援助成（公募助成）」の実施 件数：11件

(4) 歳末たすけあい募金配分事業 件数：102件

(5) 善意銀行事業

①こどもの居場所への助成 件数：17件

②ひとり親世帯支援(食品支援プロジェクト2回/親子体験思い出づくり支援1回)

支援世帯数：延べ204世帯

③児童福祉支援団体への助成 件数：3件

④その他（障がい福祉団体への助成：3件、貸出用車椅子メンテナンス代：46台）

(6) 中藤忠夫児童福祉基金事業

故中藤忠夫氏の遺贈により設立した基金で、遺志に沿って支援が必要な児童を応援することを目的とした助成を実施

①区内児童関連施設助成(児童養護施設/乳児院) 件数：3件

②習い事応援助成 件数：3件

③就職支度費応援助成 件数：1件

④ランドセル購入助成 件数：3件

(7) 小地域支え合い基金事業

故池田和喜子氏の遺贈により設立した基金で、遺志に沿って新規に立ち上がる地域支え合い活動グループへの助成を実施 件数：2件

(8) 社会福祉基金事業

ふれあい給食会への特別助成：17件

Ⅲ-2 取り組む事業の内容

【灘区社会福祉協議会】 独自事業重点項目

ミッション1 気づき・共感を育む

(1) なだふくしフェスタ（映画でつながるふくしウィーク）

認知症、ヤングケアラー、ケアリーバー、災害復興という4つのテーマそれぞれを題材とした映画視聴後、参加者同士が各テーマの当事者の心情に共感したり、そこに寄り添えるようなつながりの大切さについて話し合ったりした。

実施回数：4回 参加者数：66人

(2) ボランティア合同交流会

実施回数：1回 参加者数：22人

ミッション2 ぐらしに寄り添う

(1) 児童養護施設を巣立つ若者の新生活スタート応援グッズを提供

対象者：8人 提供グッズ：小型電化製品等

(2) 臨床心理士による児童館・学童保育専門相談事業

実施回数：24回 対象児童数：30人

(3) ベビーキャラバン事業

子育て支援者のネットワーク強化をねらいとして、主任児童委員、児童館職員、保育所・園職員、食育推進団体および保健師が連携し、0歳児親子のつどいの場を実施。

実施回数：11回（1地区1回11地区） 参加者数：251人（支援者含む）

(4) 子育てサークル支援

貸出備品を購入、利用ルールを整備し、主任児童委員をはじめとする地域住民主体の子育て支援活動を支援。

整備備品：大型絵本10冊、パラバルーン2セット、缶バッチメーカー1台

(5) ひきこもりや不登校の家族・支援者の勉強会開催による支援の強化

実施回数：2回 参加者数：64人

(6) ひきこもりや不登校の家族・支援者の交流の支援

実施回数：2回 参加者数：28人

(7) 生きがい・やりがいを感じられる活動を行う場の提供（トゥーリートゥーリー）

実施回数：12回 参加者数：36人

(8) 社会とつながりにくかったり、DV等で対人関係に不安を持っていたりする女性が安心して参加することができる居場所の提供（ほっとウイズ）

実施回数：12回 参加者数：55人

(9) なだ・暮らしのお困り相談会の開催

コロナ特例貸付の借受人で、償還ができていない世帯を対象とした償還猶予・免除の支援や経済的な生活の立て直しへの相談対応。

実施回数：2回 参加者数：4人

(10) 灘区社会福祉法人等連絡協議会との連携によるひとり親世帯支援（こども銭湯）

実施回数：1回 参加者数：14人

(11) ネット・スマホの守れるルールづくりの支援

実施回数：1回 参加者数：13人

ミッション3 つながり、支え合う

(1) 空き店舗を活用した共生の居場所づくり

住民が主体となって福祉的な課題に取り組みながら活動することにより、地域住民同士のつながりが生まれる場として「みんなのてらす」を運営した。参画：17団体

活動回数：351回 活動者数：1,238人 参加者数：2,393人

(2) ケアリーバー（児童養護施設を巣立った若者）への支援

区内3カ所の児童養護施設と地域ボランティアとの連携により、ケアリーバーの孤立防止および自立支援ならびに地域住民との関係づくりのためのつどいの場「ひだまりひろば」を開催した。

実施回数：12回 参加者数：211人（支援者含む）

(3) 地域福祉ネットワーク会議の開催

地域住民が地域の強みや課題を洗い出して共有し、課題解消に向けた検討をすることを支援した。

実施回数：2回 参加者数：16人

(4) 地域課題の検討による地域住民主体の子育て世代のための居場所の創設

地域住民が持つ「子育て世代が一息つける居場所での見守り」という課題解消に向けた取り組みを支援した。

実施回数：7回

(5) 社会福祉法人や学校と連携した子育ての居場所づくり（出前おやこ館）

実施回数：17回 参加者数：146人

(6) 灘区高齢者見守りサポーター養成

実施回数：2回 参加者数：39人

(7) 出張ボランティアセンター（ボラカフェ）の実施

実施回数：10回 参加者数：33人

(8) 「灘みんなの居場所・生活支援活動事業」助成事業

対象団体：7団体 助成総額：554,950円

Ⅲ-2 取り組む事業の内容

【中央区社会福祉協議会】 独自事業重点項目

ミッション1 気づき・共感を育む

(1) 福祉学習deツナガル

福祉に関係する団体や地域活動者と協働し、小学校や専門学校において他者と共に生きる力を育む福祉学習に取り組んだ。

(2) ボランティア交流会

中央区ボランティアセンター登録者の交流会 (R8. 3. 5)

参加者数：200人

(3) 災害時における区社協体制の構築

発災時の区社協災害ボランティアセンター立ち上げ・運営に関する区社協体制の確認と災害ボランティアセンター運営マニュアルを用いた区との情報交換を行った。

(4) 小学1年生あかはねノート贈呈

共同募金運動の理解促進のため公立小学区の新入生へノート贈呈

配布数：840冊

ミッション2 くらしに寄り添う

(1) 子どもへの緊急支援事業

こどもを見守る支援者に見守りに関するヒアリングとアンケート(回答数165件)を実施し、そこで見えた課題を市民に対し広く啓発するこどもまんなか講演会 (R8. 3. 3) を開催した。

参加者数：56名

(2) おしゃべりほっとタイム

児童館等に助産師や心理士等の専門職を派遣し、子育てに関する育児相談ができる機会をつくった。

実施回数：44回 (区内全11館 各4回)

(3) 善意銀行運営事業

①預託

金銭預託：13件 (222, 700円) 物品預託：7件

②払出

金銭払出：1件 (8, 000円) 物品払出：7件

ミッション3 つながり、支え合う

(1) 社会資源調査と分析の強化

地域に出向く職員を中心に、地域の社会資源調査やニーズ把握に取り組み、新たな社会資源開発（プロジェクト）に区社協全職員で取り組んだ。

実施プロジェクト：8件

(2) セカンドライフ応援講座NEXT

セカンドライフ応援講座第4期（R7. 7. 2～R8. 1. 16 計4回）

参加者数：延べ62人

付添ボランティア養成講座（R7. 8. 6～8. 8 計2回）

参加者数：延べ38人

セカンドライフPlusスイーツ男子塾（R7. 9. 29～R8. 3. 4 計6回）

参加者数：延べ37人

(3) アイデアdeツナガル事業

「人がつながる場づくり」について市民からアイデア募集を行い、86件のアイデアが寄せられた。これらアイデアのエッセンスを集めた「アイデア集」を発行した。

(4) 外国にルーツをもつ子どもへの居場所支援

助成団体数：2件

助成総額：560,000円

(5) あおい製作所しごとプロジェクト

実施回数：50回

のべ参加者数：546人

ボランティア参加者数：延べ171人

(6) 赤い羽根共同募金事業

募金実績：令和7年度募金実績額：11,002,343円

配分実績：社会福祉団体・施設等への支援

公募助成の実績額 3,545,685円（35団体）

(7) 歳末たすけあい募金事業

募金実績：令和7年度募金実績額：3,024,505円

配分実績：ひとりぐらし高齢者等寒中見舞い金配布、子育て世帯への支援等

Ⅲ-2 取り組む事業の内容

【兵庫区社会福祉協議会】 独自事業重点項目

ミッション1 気づき・共感を育む

(1) 多様な「かよい」の場シンポジウムの開催

地域共生社会の理念や活動内容の紹介、地域福祉活動団体の交流を目的に、地域 活動者や区社協常任員委員等を対象にしたシンポジウムを開催。実践報告で情報を共有し、グループワークによる情報・意見交換を実施した。

実施日：令和7年12月23日（火） 場所：みなとがわホール 参加者数：60人

(2) 夏休み福祉体験学習の開催

小中高校生を対象に手話講習や紙芝居を使った認知症等の福祉体験学習を実施。

実施日：令和7年8月26日（火） 場所：川池地域福祉センター 参加者数：21人

ミッション2 ぐらしに寄り添う

(1) 関係団体（ほっとかへんネット兵庫等）と連携した生活困窮者支援

食支援を含む福祉相談窓口の実施団体と連携した相談支援体制の強化

①本と食品等の交換窓口 『CHANGE-H（チェンジひょうご）』

実施日：毎週火・木曜日 場所：おるおるステーション 交換件数：延べ24件

②福祉なんでも相談窓口の開催

実施日	場所	相談件数
第2水曜日 11：30～13：30	つどいパントリー	延べ73件
第4木曜日 14：00～15：30	おるおるステーション、モーツアルト 兵庫駅前、花みさき	

③食品等の提供と相談窓口の出張開催

実施日	場所	相談件数
令和7年12月4日（木）	熊野地域福祉センター	37件
令和8年3月6日（金）	湊川公園	93件

(2) 地域貢献的居場所づくり「さんぽみちクラブ」

ボランティア活動希望者や地域福祉ネットワークが支援に関わる方のうち、人とのコミュニケーションに不安を持つ方等を対象に、活動への参加を通じた自己肯定感や自己有用感の向上を目的に実施した。

実施日：第3水曜日 場所：兵庫区役所内会議室等 参加者数：延べ103人

(3) 児童館子育てチーフアドバイザーと助産師による「おしゃべりほっとタイム」

区内8児童館にて地域における子育て専門相談・デビューサポート事業した。

実施期間：令和7年4月～令和8年3月 実施回数：24回 相談件数：152件

(4) 「おやこふらっとひろば兵庫」の受託運営

兵庫区役所6階にて、2歳までの子どもの遊び場、保護者の子育て等に関する相談場所として「おやこふらっとひろば兵庫」を受託運営。令和7年度で受託を終了するに伴い、次期運営法人に業務引継を行い、利用者の混乱なく業務を終了した。

ミッション3 つながり、支え合う

(1) 多様な「かよい」の場運営費助成

地域住民の社会とのつながりづくりや地域福祉活動への新たな担い手の参入を促進し、区域のセーフティネットの充実を図ることを目的に、区役所と協働して公募助成を実施し、地域の多様な「かよい」の場活動を支援した。

助成実績：5件 1,200,000円

(2) 善意銀行を活用した地域福祉活動への助成

- | | | |
|--------------------------|----|----------|
| ①兵庫区の地域福祉の向上に資する活動への公募助成 | 2件 | 360,000円 |
| ②こどもの居場所等活動支援助成 | 8件 | 470,000円 |
| ③地域福祉活動団体運営支援助成 | 1件 | 50,000円 |

(3) 多国籍の子育て世帯の交流の場「ふらっとおいでよ～WELCOME～」

開催日：令和7年9月30日（火）、令和8年1月27日（火）

場所：おやこふらっとひろば兵庫 参加者数：延べ40組 8カ国 87人

(4) つどいの場めぐり～シニア向けはじめの一步ツアー

開催回数：2回 参加者数：延べ4人

(5) シニア向けパンジー散歩ウォーキング

開催回数：23回 参加者数：延べ376人

(6) 障がい者の社会参加支援「ハートンサロン」

開催日：令和7年6月13日（木）、8月14日（木）、12月11日（木） 参加者数：延べ102人

(7) 乳幼児親子支援関係団体の支援・つながる仕組みづくり

- ①主任児童委員、乳幼児親子支援者対象の研修・交流会

第1回 令和7年7月17日（木） 参加者数：18人

第2回 令和7年8月22日（金） 参加者数：15人

- ②交流イベント「親子フェスティバル」

区内の子育て世帯の支援者（主任児童委員、子育てサロン、子育てサークル、児童館、保育所等）が一堂に会し、イベント開催を通して、関係者同士のつながりづくりを目的に実施した。

実施日：令和7年11月19日（水）

場所：兵庫区役所2階 みなとがわホール 参加者数：216人

(8) ひとりぐらし高齢者等への兵庫区あんしんカレンダー配布事業

地域での見守り活動やふれあい給食会活動でお渡しした。 作成部数：7,500部

Ⅲ-2 取り組む事業の内容

【北区社会福祉協議会】 独自事業重点項目

ミッション1 気づき・共感を育む

(1) 学校、企業等における福祉教育・啓発の推進（善意銀行）

①夏休み親子福祉体験講座（認知症ジュニアサポーター）

夏休みに小学生(3年生以上)とその保護者を対象に認知症ジュニアサポーター養成講座を実施
令和7年8月2日（土）開催 参加者数：26人

②区内小・中学校での福祉学習の実施：4校 参加者数：254人

(2) 子どもヘルパー育成事業（地域福祉推進基金）

児童館と地域住民との福祉学習・交流を実施：2館 参加者数：延べ128人

(3) 子ども・若者フォーラム（北区事業推進基金）

子ども・若者を取り巻く「孤立」と「つながり」をテーマに講演会等を実施

講師：ふくしと教育の実践研究所 SOLA 主宰 新崎国広氏

令和8年2月20日（金）開催 参加者数：50人

(4) 北区健康講座の開催（地域福祉推進基金）

区民が健康に関心を持ち、地域での健康促進を図るために北区医師会・北区歯科医師会・北区薬剤師会・区役所との共催で「日常会話の声トレ」をテーマとした健康講座を実施

講師：声優・ナレーター・ボイストレーナー 宇和川 恵美氏

令和7年12月20日（土）開催 参加者数：104人

(5) 発達障がい体験講座（コープこうべとの連携事業）

開催日：①令和7年10月9日（月）②令和8年2月14日（土） 参加者数：①23人②17人

ミッション2 ぐらしに寄り添う

(1) ひきこもり・不登校等の人や家族の居場所づくり（地域福祉推進基金）

ふらっとホーム（当事者や同じ悩みを持つ親同士が経験や情報を共有する場の提供）：
10回 参加者数：延べ86人

ふらっとワーク（就労等社会復帰につながる軽作業の提供）：44回

参加者数：延べ118人

(2) ひきこもり支援カウンセリング事業（北区事業推進基金）

開設日数：24回 参加者数：延べ61人

(3) 若年困窮世帯支援に向けた支援（赤い羽根共同募金）

食料品、日用品等の配布：110世帯

(4) 経済困窮世帯や社会的孤立世帯への支援

新規相談受付数：324件 支援件数：293件 支援回数：2,311回

関係機関との連携（相談対応、訪問同行、ケース会議等）：958件

(5) 北区社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット KOBÉ・北）事務局の運営

ふれあい喫茶、給食会への高齢者の移動支援：5か所

小学校等福祉学習への協力：6か所 災害ネットワーク事業（研修・交流会）の実施

（6）児童養護施設卒業予定者への新生活応援事業（善意銀行）

新たな生活に必要な物資（防災グッズ）のほか、困りごとの相談場所を示したマグネットを7人に贈呈

（7）子育てサークル支援・活動助成・支援者講習会等（善意銀行）

助成実施：1団体10,000円 交流会：令和7年12月8日（木）開催 参加者数：9人

（8）児童館への図書贈呈事業（きたっこおもいやり文庫）（善意銀行）

助成実施：12館170,950円

（9）ネットワークづくり・福祉資源開発

「多職種意見交換会～人と動物の福祉について考える～」6回

ミッション3 つながり、支え合う

（1）北区自立支援協議会との連携

障がい者ふれあい商品の普及啓発・販売促進、障害者作品展の開催支援

（2）農でデザインする福祉のまちづくり事業・農福連携プロジェクト（善意銀行）

障がい者支援施設・事業所商品の販路拡大、広報支援、行事での野菜販売 9回

（3）単身高齢者等への北区まごころカレンダー作成・配布事業（善意銀行・共同募金配分金）

作成数：13,100部 配布時期：令和7年11月～12月

（4）ひとりぐらし高齢者等ふれあい給食会活動の推進（共同募金配分金）

団体数：33 活動者数：4,193人 実施回数：410回 延べ参加者数：11,316人

（5）地域のつどいの場づくり支援助成（善意銀行）

会場費助成実施：1団体2,500円 つどいの場運営支援：56団体

（6）日常生活の中で気づいた高齢者の異変を、あんしんすこやかセンターに連絡する活動を行う絆サポーターの養成・研修の実施（区役所連携事業）

絆サポーター登録者数：14地区 756人 わんわん隊登録者数：48人

（7）高齢者相互見守り活動の推進（共同募金配分金）

地域で見守り活動を実施する老人クラブ会員グループの活動に対して助成を行った46グループ（160人） 対象高齢者数：230人

（8）こどもの居場所づくり支援事業（共同募金・地域福祉推進基金）

運営支援：40団体 活動助成実施：10団体547,000円

（9）ボランティア活動支援

- ・ボランティア活動紹介冊子の発行：800部
- ・北神ボランティアセンターだよりの発行：1,500部

（10）共同募金配分金事業の見直し

地域生活課題解消に取り組む活動を対象とした「地域福祉活動応援助成」を制定

（11）鈴蘭台の活性化に向けた連携事業

北区役所、ベルスト鈴蘭台、北区役所管理組合と連携しイベントを開催 実施回数：3回

Ⅱ-2 取り組む事業の内容

【長田区社会福祉協議会】 独自事業重点項目

ミッション1 気づき・共感を育む

(1) 善意銀行による地域団体などへの支援

- ・区内障がいサービス事業所と協働した機材の貸し出し 44件

ミッション2 ぐらしに寄り添う

(1) 長田区児童館合同行事

- ・こどもっとひろばin大正筋商店街

開催日時：令和7年8月9日（土）～8月11日（月） 場所：長田区大正筋商店街

(2) 地域活動活性化のための講師派遣

- ・高齢者対象行事への派遣：62件 こども対象行事への派遣：7件

(3) 子どもたちのより豊かな夏休み生活を応援「サマーチャレンジ」

- ・児童館10館および学童保育コーナー5ヶ所へ助成：225,000円

(4) 芝田カナエ・和江文庫「はびっと」～子どもたちが本を手にする習慣づけ～

- ・児童福祉施設等46施設へ合計331冊の本を寄贈

(5) 車いすの貸出

- ・車いすを一時的に必要とする地域住民への無料貸し出し：140件

ミッション3 つながり、支え合う

(1) さまざまな居場所づくり

既存の高齢者の居場所やこどもの居場所への継続支援

- ・高齢者の居場所の立ち上げ：5件
- ・こどもの居場所の立ち上げ：6件
- ・高齢者を対象とする活動の立ち上げ支援やサポート助成（3 S助成）：7件190,000円

(2) 児童館を拠点とした小地域子育て支援ネットワークづくり

- ・小地域子育て支援ネットワーク連絡会への参加（6回）と助成（4件）120,000円

(3) 地域福祉シンポジウム2026

開催日時：令和8年2月28日（土）14:30～16:30 場所：長田区役所7階大会議室

講師：西川 正 氏 参加者数：73人（一般参加50名、関係機関23名）

内容：宮川ふれあい喫茶の取り組み事例紹介、講演、参加者同士の交流

(4) 多文化交流と多文化共生の促進（区単独受託）

- ・ベトナム人児童や親子を対象とした交流事業
実施回数：3回 参加者数：延べ251人
内容：第1回 ゴミ分別講座、第2回 調味料講座、第3回 防災講座
- ・区内ベトナム人保護者への通訳・翻訳の支援： 99回
- ・区内児童館・学童保育コーナーでのコミュニケーション支援：185回
- ・区内保育所・園職員向け多文化共生研修：6回

(5) 子どもたちの福祉増進

- ・児童福祉事業助成：4件1,330,000円
- ・「こどもの居場所」運営助成：27件810,000円
- ・長田区5歳児地域交流会：110,000円
- ・区内児童福祉施設への物品購入助成：3件300,000円
- ・児童福祉施設等入所者への就労準備支援：100,000円
- ・交通遺児に対する助成：2件40,000円
- ・里親制度の啓発協力：50,000円

(6) 善意銀行による団体などへの支援

- ・定期的に実施されている事業への助成：9件259,630円
- ・新規立ち上げ事業への助成：4件200,000円
- ・大規模事業および周年行事業への助成：3件335,000円
- ・物品の払い出し：23件

(7) さるびあギフトの運営

- ・区内就労支援事業所等の授産品を販売促進するための紹介WEBの運営

(8) 赤い羽根共同募金配分金による団体などへの助成等支援

- ・高齢者福祉活動：81,368円
- ・障がい児・者福祉活動：130,000円
- ・児童・青少年福祉活動：425,000円
- ・住民全般福祉活動：874,100円

(9) 歳末たすけあい募金配分金による団体などへの助成等支援

- ・高齢者に関する支援（見守りカレンダー・給食会）：1,415,075円
- ・障がい児・者に関する支援（地域住民との交流）：25,000円
- ・外国人に関する支援（地域住民との交流）：140,000円
- ・福祉課題に関する支援（福祉課題を抱える人や世帯への支援）：221,000円
- ・児童に関する支援（こどもの居場所）：625,000円
- ・地域活動に関する支援（NPO法人・親子参画事業・地域福祉活動費）：531,400円

Ⅲ-2 取り組む事業の内容

【須磨区社会福祉協議会】 独自事業重点項目

ミッション1 気づき・共感を育む

(1) 活動啓発ホームページ・SNSの開設、区社協だより配布事業の実施

ホームページ・SNS更新回数：128回 Instagramフォロワー数：932人
区社協だより発行回数 1回 区社協だより配布部数 37,000部/回

(2) 「夏休みおやこ手話教室」の実施

実施：令和7年7月26日（土） 参加者数：児童22人 保護者20人

(3) 高学年地域ボランティア「子どもヘルパー」事業の実施

実施期間通年： 参加者数：児童918人 実施館数：4館

(4) 「キッズマネー講座」の実施

世代を超えた貧困予防を目的に親子でお金の大切さや役割を学ぶ
実施：令和7年8月3日（日） 参加者数：児童9人保護者8人

(5) 福祉学習に関する情報提供および福祉教育機材の貸出事業の実施

機材貸出種類数：8種 機材貸出回数：延べ70回

(6) 児童向け啓発事業「チャレンジこどもSDGS」の実施

実施：令和7年8月1日（金）～8月22日（金） 参加者数：児童68人
実施館数：3館

(7) 地域での多世代交流等を行う大学生ボランティアグループ「SUMAP」支援事業の実施

内容：板宿餅つきイベントの企画・参加、学習支援活動の理解と課題解決の検討
活動回数：延べ21回 活動参加者数：延べ67人

ミッション2 ぐらしに寄り添う

(1) 一時的なニーズに対する「車いす貸出事業」の実施

貸出場所：本区 区役所 北須磨 きたすま障害者相談支援センター
貸し出し台数：延べ264台

(2) 乳幼児を持つ保護者のつながりを作る「おしゃべりほっとタイム」事業の実施

実施回数：28回 参加者数：延べ297人

(3) 乳幼児親子と小学生のためのあそびプログラム講師派遣事業の実施

派遣回数：13回 参加者数：延べ315人

(4) 地域ニーズに応じた乳幼児支援事業の実施

実施回数：2回 参加者数：延べ66人

(5) 絵手紙ボランティア活動とひとり暮らし高齢者等への寄り添い事業の実施

活動回数：45回 活動参加者数：延べ307人

(6) 終活とこれからの暮らしを見つめなおす「わたしの未来ノート」配布事業の実施

配布部数：433部

(7) 生きづらさを抱える人の居場所となる「コスモスのたね」事業の実施

実施回数：12回 参加者数：延べ35人

ミッション3 つながり、支え合う

(1) 赤い羽根共同募金運動と地域配分、居場所づくり、地域交流事業の実施

須磨区共同募金推進委員会開催 開催日：令和7年9月9日（火）

募金額：5,394,126円 街頭募金活動回数：19回

配分先団体数：67団体 地域配分総額：2,850,864円

(2) 歳末たすけあい募金運動と配分事業の実施

募金額：878,500円 配分先団体数：119団体

(3) 善意銀行の運営と金銭、物品の払い出し事業の実施

預託件数：58件 預託団体（個人）数：14団体（12人）

預託総額：1,169,039円 物品預託件数：12件

払い出し団体数：51団体（内物品払出団体数33団体）

(4) こどもの居場所づくり支援事業の実施

こどもの居場所マップの配布：2,400部

こどもの居場所交流会&フードドライブ譲渡会の開催：年間2回 参加者数：56人

(5) 児童館の児童と高齢者との交流事業の実施

実施期間：令和7年7月～令和8年3月 参加者数（児童・高齢者）：延べ1,003人

(6) ふれあい給食活動に対する区社協追加助成事業の実施

区社協追加助成グループ数：23グループ

(7) 福祉施設による地域交流事業の実施

おいでやすカーニバル 令和7年9月23日（火）

ヨハネ祭 令和7年10月25日（土）

(8) 「ご近所見守りサポーター養成事業」の実施

地域の児童・高齢者等の見守り活動の推進および民生委員・児童委員の負担軽減のために、医療・福祉・教育分野の従事者向けの講座を開催した。

サポーター登録者総数：221人

(9) 地域で生活する障がいのある方の暮らしを支える「須磨区自立支援協議会」への参画

部会種類：まなぼ一部会 ともいき部会 親子部会 すまいんど部会 相談部会

(10) 社会福祉法人連携による地域貢献活動である「ほっとかへんネット須磨」への参画

加盟法人数：30法人 役員会、全体会、部会開催回数：21回

Ⅲ-2 取り組む事業の内容

【垂水区社会福祉協議会】 独自事業重点項目

ミッション1 気づき・共感を育む

(1) 福祉教育推進事業

小中学校等における福祉学習のための車いす・点字盤等福祉グッズの貸出：23 件

(2) 保健福祉フェアへの参加

①区内児童館(コーナー)、保育園(所)、障害福祉サービス事業所等の展示・販売

②神戸鍼灸マッサージ師会等による鍼灸・マッサージ施術体験への助成

開催期日：令和7年11月26日(水)～28日(金)

(3) ボランティア交流会

日時：令和8年3月12日(木) 13:00～16:00 場所：レバンテホール

(4) ボランティア情報紙「たるたるハート」の発行

年1回 4,000部作成し、登録ボランティアをはじめ、関係各所へ配布

(5) 共同募金運動推進協力費の助成

赤い羽根共同募金運動の支援のため、垂水区共同募金委員会へ助成

(6) 地域情報発信事業

垂水区社協の特徴的な取り組みの紹介冊子「#垂水区社協★情報発信!!」を作成・配布

(7) 外部アドバイザーによる地域協働コーディネート・広報事業

たるみ応援ハートブリッジ助成事業における助言およびSNSを活用した広報業務の強化

ミッション2 ぐらしに寄り添う

(1) 赤ちゃん訪問活動支援

主任児童委員等による訪問件数：104件、 情報提供(ポスティング)のみ：74件

(2) こどもの居場所づくり支援

こどもの居場所助成 10団体 525,000円

こどもの居場所交流会・フードシェアの会(協力：コープこうべ)

(3) ひきこもりの方と家族への支援事業

ひきこもりの方の家族の居場所：12回(毎月1回)開催 延べ109世帯、119人参加

(4) エンディングノートの配布

垂水区版エンディングノート作成部数：1,000冊

(5) 元気なうちの税務相談～終活・相続・遺贈寄付

税理士による相談会を12回(月1回)開催 相談件数：42件

(6) 終活セミナー開催事業

広く高齢者支援に携わる方を対象に終活においてよくある相談や困りごとについて、終活相談窓口に寄せられている事例を踏まえながら実践的に学べる動画（25 分）を作成し、YouTubeの限定公開で配信

(7) 日本語教室助成

神陵台地区周辺に居住する中国帰国者支援：43 回 参加者数：延べ 445 人

(8) 車いす貸出事業

貸出件数：169 件（貸出日数：延べ 3,664 日）

ミッション3 つながり、支え合う

(1) 食支援を通じた地域資源等との連携強化事業

区内スクールソーシャルワーカーと連携した課題を抱える世帯への食支援を契機としたこどもの居場所等地域資源とのつながりづくり 13 世帯 38 人

(2) 地域活動立ち上げ支援事業

1 団体 50,000 円助成

(3) ポスタープリンター印刷支援

利用件数：8 件

(4) 子育てサークルへの講師派遣事業

派遣団体数：21 団体

(5) ふれあい給食サービスグループバス助成

外出行事を行う際の借り上げ費用の一部を 5 団体に助成

(6) おたよりくらぶ

ひとり暮らしの高齢者や障がい者の見守り活動のひとつとして、毎月 2 回、ボランティアが絵手紙・切り絵などのおたよりを作成・送付 送付数：延べ 976 通

(7) たるみ応援ハートブリッジ助成事業

助成団体数：3 団体（一般枠：2 団体、小規模枠 1 団体） 計 506,000 円助成

(8) たるみっこまつり出店助成

障がい者団体のたるみっこまつりへの参加支援：3 団体（荒天中止により準備費用を助成）

(9) 発達障害児支援助成

助成団体数：1 団体

(10) 単年度実績助成

助成団体数：6 団体、22 事業所

(11) アンテナショップ運営支援

垂水区地域自立支援協議会就労支援部会が、区役所ロビーで開催している「たるみアンテナショップ」に対するチラシや掲示物等の作成、配布、掲示等の支援

(12) 歳末たすけあい配分金事業

各地域の実情に応じた歳末福祉活動（地域住民交流事業）の支援

Ⅲ-2 取り組む事業の内容

【西区社会福祉協議会】 独自事業重点項目

ミッション1 気づき・共感を育む

(1) ボランティアセンターの運営

①ボランティア交流促進事業

- ・フォローアップ交流会「ボランティア活動から”気づき”のシェア会」

実施回数:1回(3月4日) 参加数:62人

②大学生等若年層のボランティア活動の推進

- ・防災講座「その時、自分は何ができるだろう？」場所:神戸市外国語大学

実施回数:2回(11月16日、12月7日) 参加者数:延べ6人

- ・サマーボランティアの受入れ(はっぴ〜にしNIKO SHOP)

実施回数:3回(8月20日、8月28日、8月29日) 参加者数:延べ7人

③福祉学習応援事業による小学校への福祉学習サポート

期間:9月29日~2月9日 参加数:4年生 406人、5年生 182人

- ・テーマ「車いすを使う人の気持ちになってみよう」

対象:玉津第一・有瀬・樫野台・北山・桜が丘・高津橋・櫛谷 各小学校

- ・テーマ「年を取るってどういうこと？」

対象:糺台小学校

- ・テーマ「見えないことを体験してみよう(誘導編)」

対象:岩岡小学校

④災害時のボランティア活動の推進

- ・西区出張災害ボランティアセンターの開設(西区総合防災訓練で実施)

実施日:2月15日 ニードとボランティアのマッチング件数:31件

(2) 募金活動の推進

①募金箱デザインコンテストの実施 申込校数:6校 申込人数:201人

②公募助成「赤い羽根地域ささえあい助成」の実施 採択:7団体 助成総額:995,000円

(3) 「西区健康・福祉フェア&はっぴ〜カーニバル」の開催(場所:プレンティ広場)

実施日:10月4日 来場数:8,000人 参加数:18団体24事業所 出演数:5団体

ミッション2 ぐらしに寄り添う

(1) 総合相談事業の展開

①心配ごと相談所の運営 相談件数:西区社協31件・玉津支所9件

②成年後見の利用手続き相談室の運営支援 相談件数:37件

③生活困窮者世帯への相談事業

- ・サイト「ごはんさん」食を通じた相談支援
相談件数:102件 支援回数:延べ1,455回
- ・地域型拠点「POKKEたまつ」での個別面談・食料配布会
開催:12回 利用:124件

(2) 地域における子育て支援の実施

- ①すくすく訪問活動支援事業 申込数:166件
- ②出前親子館事業
 - ・親子の広場支援 実施:4地区 参加数:延べ60組ほど
 - ・サマーひろばの開催 実施:2回 参加数:各日30組
- ③こどもの居場所づくり事業の推進 活動団体数:53団体 新規立ち上げ:3団体

(3) 車いすバンクの運営

＜貸出件数＞西区社協:56件 地域福祉センター(※現地域交流センター)等:125件
出張所:50件 西区社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット):53件

ミッション3 つながり、支え合う

(1) 身近な地域のつながり・ささえあい活動の推進

- ①フクシルプロジェクトの実施(フクシル会議 実施回数:16回 参加者数:延べ252人)
- ②頼りになる緊急時の新たな仕組みづくりへの取り組み
 - ・あんしん見守りポシエットの配布ならびに啓発
西区健康・福祉フェア終活相談ブース:60件、学園都市:120件、月が丘:60件、
岩岡:20件、井吹台:60件、美賀多台:40件 等

(2) 地域見守り・支え合い活動の推進

あんしん見守りカレンダーの作成配布:民生委員児童委員協議会22地区(11,000部)

(3) 障がい者福祉の推進

- ・西区内の障がい福祉サービス事業所製品等販売促進支援事業
実施日数:52日 出店事業所数:延べ138事業所 ボランティア参加者数:延べ108人

(4) 児童と高齢者等の地域交流促進事業 助成団体) 公営:10団体 民間:17団体

(5) 区内企業、多職種、他機関との連携強化

- ①コープこうべ第5地区本部
 - ・こどもの居場所フードシェア 開催:2回 参加:延べ44団体
 - ・生活困窮者等への食支援を通じた相談支援 開催:12回 利用:124件[再掲]
- ②兵庫ヤクルト販売(株):フードロス品のこどもの居場所への提供(商品提供:2団体)
- ③グリコ・マニファクチャリングジャパン(株)÷
福祉フェアへの協賛、フードロス品の生活困窮者や児童館等への提供 82団体
- ④川崎重工業(株)明石工場
災害備蓄品ローリングストックの生活困窮者、児童館への提供:7団体
- ⑤(株)神戸製鋼所神戸総合技術研究 災害備蓄品ローリングストックの児童館への提供:9団体
- ⑥イーライリリー(株):ウフマルシェにて障がい福祉サービス事業所との連携